

既存COBOL資産を活かして業務システム構築を実現するオープンCOBOL

COBOL Standard Edition V5.3 および関連製品のご紹介

2025年 6月

日本電気株式会社

目次

1. COBOLの動向およびCOBOL業務システムの状況
2. NEC社製従来COBOLとの互換性
3. 従来COBOLからの移行における留意事項
4. COBOL Standard Edition 機能紹介 ‘新たな機能’
5. V5.2→V5.3の強化機能
6. 製品体系・価格
7. その他

1. COBOLの動向および COBOL業務システムの状況

1.1. COBOLの動向

■ COBOLの利用状況

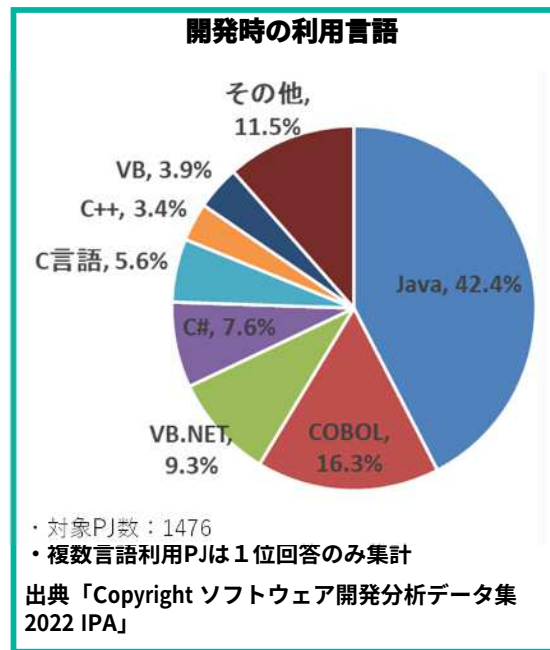
- Javaについて**第2位の開発言語**
(過去10年傾向変わらず)

■ 60周年を越える長寿言語

→COBOL資産は**世界で約8,000億行**^(*1)

- 1959年 誕生
- 1974年 第2次規格(COBOL74)
- 1985年 第3次規格(COBOL85)
- 2002年 第4次規格(COBOL2002)
- 2014年 第5次規格
 - 動的テーブル、不定長データ項目、・・・
- **2019年 60周年**

今後もさらに進化



(*1)2022年2月4日のMicro Focus社の「COBOLの市場規模が従来の3倍に拡大、最新の独自調査で判明」のプレスリリースによる

1.2. COBOLが利用されている理由

- 事務処理向け言語 (COmmon BUssiness ORiented Language)
 - **金額計算向き**
 - ・ 10進固定小数点で、まるめ誤差を制御
- 大量レコード（データ）処理向け
 - ・ 読み込み、即使用可能（フィールドごとのオブジェクト生成不要）
- 高生産性・高保守性
 - ・ 書く人による「ふれ」が少なく、**プログラムの可読性がよい**
 - ・ データ名・ファイル名・段落名などに**日本語が利用可能**
- メモリ性能設計が容易
 - ・ 定義したデータサイズしかメモリを取らない（**動的にメモリを取らない**）
- 長期にわたる互換性維持
 - ・ **国際規格**が仕様を規定
 - ・ ハードウェア・OS間で、**共通の言語仕様**
 - ・ 膨大な**既存資産**を長期にわたって**活用可能**

1.3.COBOL業務システムの状況

■ 現状のCOBOL業務システムで、このようなことでお困りではありませんか？

現状のシステムでは急増するデータをタイムリーに処理できない



データ増加でシステム能力が限界

Ex.

- 32ビット超のデータの計算
- 32ビット超の数値データの入出力
- ビッグデータの処理

等々

バッチ処理時間 → オンライン処理時間



バッチ処理に時間が掛かる



COBOL資産

業務システム

膨大なCOBOL資産の今後が不安

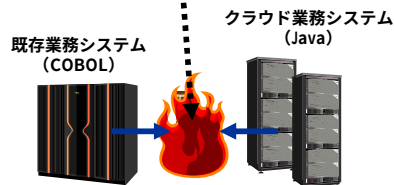
××インフレーム・オフコン資産の有効活用

××開発生産性

××COBOL言語の将来性

××最新HW・OS対応

最新技術を利用したシステムとCOBOLベースのシステム連携が難しい



最新技術と既存システムの連携

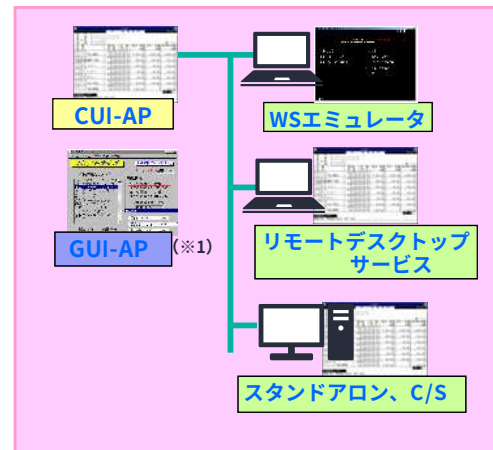
Ex.

- クラウドから既存業務を利用
 - 既存業務からクラウド業務を利用
 - クラウド環境への既存業務移行
- 等々

1.4. 様々な課題を、COBOL Standard Editionが解決

■ 導入効果と機能

- 既存COBOL資産を最大限活用可能
 - 第4次規格(COBOL2002)に対応する一方、第3次規格(COBOL85)の互換を保持
 - COBOL WSエミュレータ、COBOL アプリケーション実行環境、COBOL A-VX互換機能/カンパニIDオプションによりオフコンと同様のシステム運用環境(画面/プリンタ/実行制御/ファイル制御)を実現
 - AP構造を変更することなく、DBのオープン化や画面のGUI化が可能^(※1)
 - Windows 64ビットネイティブ実行で、最新HW/OS提供性能をそのまま享受
- 開発・保守作業支援機能を提供
 - トラブル解析に有効な実行トレースおよびレコードダンプ情報をリコンパイル無しで採取する機能を提供。オプション製品^(※2)によりカバレッジ測定のための情報採取も可能



COBOL SEは、スタンドアロンシステムからクライアント・サーバ型、サーバ集中型業務システムまで、いずれの業務アプリケーションも開発可能

(※1) 実行時、SQL文によるODBC接続はCOBOL SQLアクセス Runtime、画面GUI化はCOBOL GUI Runtime のオプション製品が必要

(※2) 別売のCOBOL Assistant Option が必要

1.5. COBOL Standard Editionに移行するメリット

COBOL Standard Editionは高いパフォーマンスを発揮します

従来COBOL^(※1)

- ・製品サポート終了
- ・Windowsの64bitアプリケーション生成不可^(※2)
- ・リモートデスクトップを使用した開発が不可^(※2)
- ・関連製品とライセンスの考え方が不統一^(※2)

COBOL Standard Edition

- ・最新OSサポートした製品提供継続
- ・64bitアプリケーションを生成可能
- ・リモートデスクトップを使用した開発が可能
- ・関連製品とライセンスの考え方を統一

(※1) Windows 32ビット用のOpen COBOL Factory 21やA-VX

(※2) 主にWindows 32ビット用のOpen COBOL Factory 21



2. NEC社製 従来COBOLとの互換性

主に、Windows(32ビット)用のOpen COBOL Factory 21 (以降、OCF21)やA-VXとの互換性についてのご紹介です。

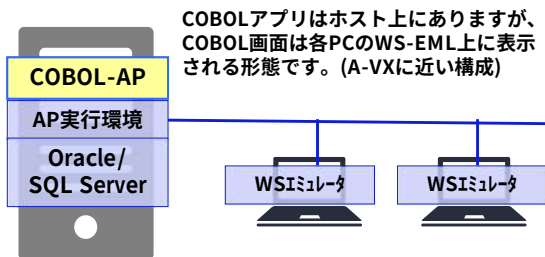
「従来COBOL」は、OCF21やA-VXを指します。(どちらか一方の場合はOCF21/A-VXを明示)

2.1. 構築可能なシステム形態

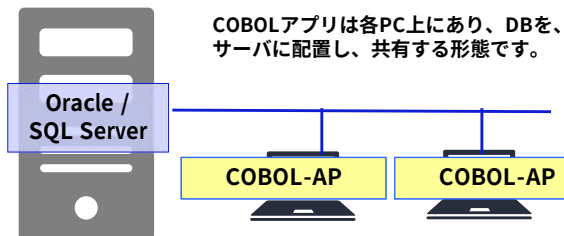
■ COBOL SEは、オープン系業務のシステム形態を広くカバー

- 従来COBOL製品と同様に、移行性、操作性、運用性、サーバやネットワークの要求性能に応じて自由にシステム構成を組むことが可能です。

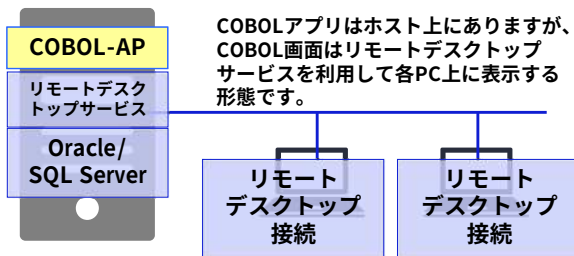
ホスト集中型（WSエミュレータ利用）



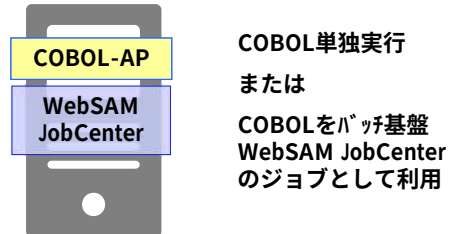
クライアント／サーバ型



ホスト集中型（リモートデスクトップサービス利用）



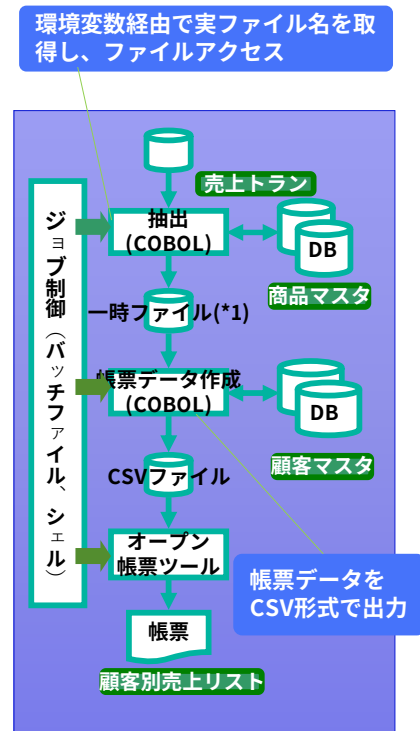
スタンドアロン型



<参考> バッチシステム形態

■ バッチシステムを構築可能な言語機能をサポート

- 実行制御
 - 環境変数の値を取得するサブルーチンを提供
 - プログラム内で、環境変数の値によって、処理を変更することが可能に
- 一時ファイル機能^(*)
 - バッチの各ステップ間をつなぐ一時ファイルとして、順ファイルの活用が可能
 - 順ファイルのファイル名には、システム内一意となる名前を指定することで、同一バッチの同時走行が可能に
- オープン帳票ツール連携
 - オープン帳票で標準的にサポートされているCSVファイルの入出力が可能
 - 帳票(フォーム)はオープン帳票ツールで設計、印字データ加工はCOBOLで実施という連携が可能に



(*) 別売の「COBOL 拡張システムサブルーチン」が必要

2.2. 機能の継承性

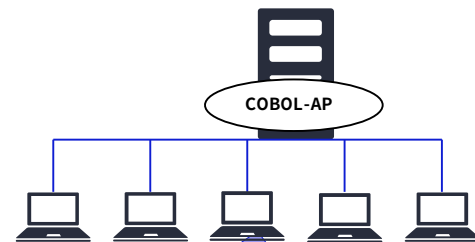
■ 従来COBOL製品との互換性に配慮し、資産やノウハウの継承性を確保

機能	サポート内容(概要)
画面	・従来COBOL製品と高互換性の画面節機能をサポート ・業務画面は、COBOL アプリケーション実行環境との組み合わせでWSエミュレータが利用可 ・GUI化機能(OCF21/View Generator相当)をサポート
帳票	・COBOL アプリケーション実行環境を用いることで、従来プリンタ装置、スプールでの運用、フォーム(VISUALFORMS)の利用が可能 ・SVFなどのオープン帳票との連携も可(CSVファイル経由)
ファイル	・COBOL独自形式の順ファイル機能、相対ファイル機能、ISAM製品を利用した索引ファイル機能をサポート ・クライアントサーバ型のファイルシステム(OCF21/IFASPRO相当)で順/相対/索引ファイルをサポート
ソート・マージ	・整列併合機能をサポート。バッチシステム用のSORTコマンド製品も提供
データベース	・READ/WRITEによるCOBOL DBアクセス機能(DBリンクキット相当)をサポート (接続先DBは、Oracle、SQL Server) ・READ/WRITEによるIFASPRO RDB (IFASPRO/RDB相当)の利用も可能 ・SQLによるCOBOL SQLアクセス機能(OCF21/SQLEXTENSION相当)も提供 ・Oracle Pro*COBOLとの連携も可能
実行制御	・ホスト集中型形態での、アプリケーション実行制御の互換性確保 (CBLRUN/CBLSPAWN/CBLCHAIN)
セキュリティ	・A-VXのカンパニID相当機能を提供
文字	・外字データの流用
開発・保守	・OCF21のWorkbenchのユーザインタフェースを踏襲したCOBOL開発環境 ・COBOLアプリケーション実行時の問題解決のための情報採取機能

2.3. 画面機能(1/3)

■ 画面機能 (CUI)

- COBOL Standard Edition機能として標準サポート
- 画面に関する細かな振る舞い・動作までOCF21と互換性を保持
 - 罫線と文字のバランス
 - 文字数字入力時の動作（オーバフロー時、小数入力時など）
 - FEP動作
- 先行キー入力もOCF21と同等レベルでサポート
 - キーの早打ちにより、次画面へ移る前に、次画面の項目への入力が可能



Form fields and data:

- Form会社: 170005
- 受注No: 08/08/08
- 得意先: 11
- 納入先: 22
- 受注伝票 入力 (発行)
- 2008年 8月分
- 担当: 01
- 製品名: 製品名
- 単位: 単位
- 受注数: 受注数
- 単価: 単価
- 納期: 納期
- 請: 請
- 11201100
- 20002191
- 11201100
- 20002191
- 10.0
- 105.90 08/08/30 0
- 4.0
- 1,050 08/08/15
- 100.00
- キーで単語ZERO
- 使用原材料
- 2601090-27
- 4:20
- 検査成績書 (●●●●)
- 注文No
- 1122334455
- 1 PK.00 01

<参考> 画面機能(標準機能)

■ 画面節のカスタマイズは自由自在

- 画面サイズは、80コラム x 25行固定ではありません。業務に合わせて大きさを自由に変更が可能です。
 - (注) アプリケーション実行環境(WS-EML配下)では変更不可となります。
- さらに、業務に合わせて画面属性を変更可能
 - 最大化表示指定
 - 表示位置の固定化
 - 画面最小化の無効化
 - 強制終了(「x」ボタン)の無効化。
 - 先行キー入力の無効化
 - 「,」(カンマ)キーを「000」キーとみなす機能
 - 画面ハードコピーの無効化
 - FEP入力モードの既定値変更
 - など

2.3. 画面機能(2/3)

■ WSエミュレータ経由でのA-VXの画面機能と互換性を維持

- COBOLアプリケーション実行環境との組み合わせによりWSエミュレータ経由でサーバ上のCOBOL-AP実行が可能。業務画面操作互換が保てるため、
操作者(オペレータ)の再教育が不要

■ 細かな操作性・動作もA-VXと同等

- 先行キー入力が可能
- 罫線と文字のバランス
- 文字数字入力時の動作(オーバーフロー時など)

■ A-VX特有機能の修正も必要最低限に

- 例えばCOBOL Standard Editionでは、画面節のHIGH INTENSITY句はありませんが、プログラムを修正せずにコンパイラが自動的にメモ扱いして翻訳・実行可能



WSエミュレータにて起動した業務APの画面



ここがポイント： 他ベンダーのCOBOLの画面機能

- 罫線は日本独自の文化です。欧米には罫線の文化はなく、欧米のCOBOLには罫線機能が貧弱なものもあり、罫線と文字がくっつくなどバランスがA-VXと同じようにはならない場合があります
- 文字の先行入力ができない場合があります
- 画面入出力の処理をフィールド単位から画面単位に変更が必要な場合があります(プログラムロジックの変更も必要になります)
- 文字フォントの選択肢が少なくなる場合があります
- Windows画面描画ではなく、DOS画面に描画するタイプのものがあります(DOS画面の場合、発色の暗さ、ちらつきなどが目立つケースがあります)

2.3. 画面機能(3/3)

■ COBOL業務画面のビジュアル化が可能

- 画面入出力部分は独立設計
- 基本的に、COBOLプログラムから、画面を呼び出す形式であり、画面と業務ロジックが分離
プログラマは従来どおり業務ロジック設計に専念できます
- イベントに対して処理を記述するようなイベント・ドリブン型の設計ではないので、従来どおり手続き型でプログラムが記載できます



従来のCOBOL画面

GUI化



2.4. 帳票機能

■ VISUALFORMS

- VISUALFORMSで作られたフォームは、そのまま流用が可能
 - A-VXのフォームデータ変換・フォームソース移行の機能を提供
 - フォームおよびアプリケーションの作り直しが不要
 - 従来プリンタ装置が利用可能
 - スプール機能も利用可能



ここがポイント：
他ベンダーのCOBOLでは

A-VXの帳票はフォームの移行はできません
またプログラムも作り直しとなります
(プログラムからはテキストもしくはCSV形式で出力し、
別途帳票ツールで出力するなど)

■ オープン帳票ミドルウェアとの連携

- COBOL Standard Edition標準機能であるCSVファイル入出力機能で連携可能
 - COBOL Standard EditionでCSVファイルを作成。そのまま帳票ミドルウェアへ入力。

■ OCF21/帳楽Ex、OCF21/プリ楽は変更要

- 各製品、COBOL Standard Editionでの提供予定はなし
 - COBOLのWRITE文を利用して打ち出した帳票については、フォームおよびCOBOLアプリケーションの見直しが必要

<参考> プリンタ機能

■ A-VXと同様のプリンタ装置が利用可能

A-VXでご利用のプリンタ、もしくは後継のプリンタが、サポート対象装置であれば、A-VXと同様に利用可能です
そのために必要となる各種プリンタ向けの支援ソフトも提供します

■ A-VXと同様に、以下の機能提供や仕様の継承を行います

- スプール機能(COBOL印刷時)
- プリンタ障害通知機能(接続形態に応じた関連製品が必要)
- 制御コード (注)シンボリック制御で定義されていない場合、EBCDICからシフトJISへのコード変換必要
 - PRN、PRN999など
PRN：システムプリンタ、PRN999：ステーション対応プリンタ、
PRN100～399：特定プリンタ(接続形態毎に100台まで利用可能)
 - プリンタファイルのシンボリック制御
システムサブルーチン(CBLSYMPR)で提供

■ クライアントに接続したプリンタへの出力も可能



ここがポイント： 他ベンダーのCOBOLでは

- スプール機能は利用できません
- 対応プリンタがWindowsの機能（通常使うプリンタ）に依存します

2.5. ファイル機能(1/2)

■ ファイル機能

- 独自ファイル形式の相対ファイル機能をサポート
- ISAM形式の索引ファイル機能をサポート

ファイル編成	A-VX	OCF21	COBOL SE V1	COBOL SE V2以降
順ファイル	COBOL独自形式(SEQ) ^(*4)	COBOL独自形式 IFAS形式 ^(*3)	COBOL独自形式 IFAS形式 ^(*3)	COBOL独自形式 IFAS形式 ^(*3)
相対ファイル	COBOL独自形式(REL) ^(*4)	COBOL独自形式 IFAS形式 ^(*3)	— IFAS形式 ^(*3)	COBOL独自形式 ^(*1) IFAS形式 ^(*3)
索引ファイル	COBOL独自形式(IS, MIX) ^(*4)	COBOL独自形式 IFAS形式 ^(*3) —	— IFAS形式 ^(*3) —	— IFAS形式 ^(*3) ISAM形式 ^(*2)

※COBOL独自形式ファイル、およびIFAS形式のファイルは、COBOL SE標準提供

(*1) OCF21のCOBOL独自形式と異なる形式のため形式変換が必要

(*2) 別売のISAM製品が必要

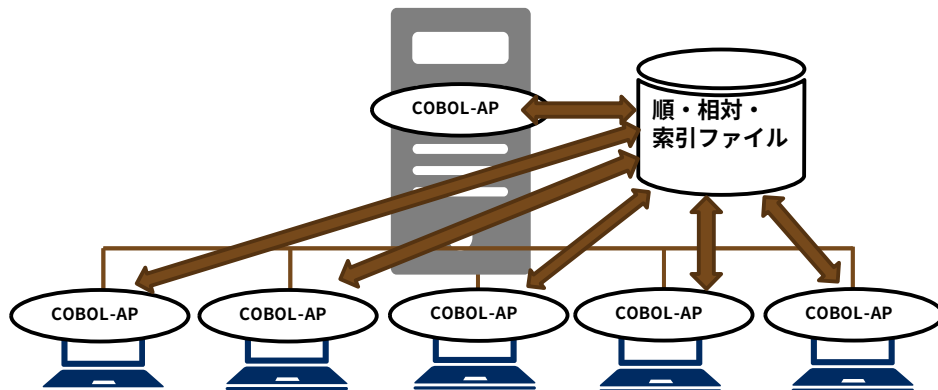
(*3) Windows Server 2019以降はファイルメンテナンスキット動作対象外のため、運用見直し要

(*4) A-VXのファイルはWindowsファイルに変換が必要

2.5. ファイル機能(IFAS形式)(2/2) (*1)

■ 従来のファイルの概念を超えた本格COBOL用ファイルシステム

- 順・相対・索引(副次アクセス可)編成に対応
- ジャーナル機能、コミット機能、ロールバック、ロールフォワードなど、充実したリカバリ機能を提供
- ネットワーク上のCOBOLアプリケーションからCOBOLデータの共有が可能
 - レコードレベルの排他制御ももちろん可能(デッドロックの自動検出(*2))



(*1) Windows Server 2019以降はファイルメンテナンスキット動作対象外のため、運用見直し要

(*2) 入出力命令実行時にデッドロックが発生すると、IFASが自動的に検知し、入出力状態(ファイルステータス)として '9J' を返却するので、利用者プログラムは、ROLLBACK命令実行後、再処理をする等、必要な処置を行うことができる。(デッドロック検出のための特別な設定は不要)

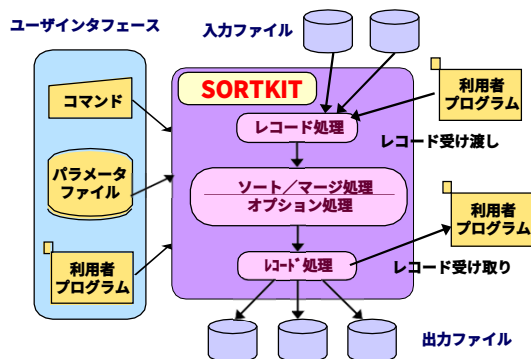
2.6. ソートマージ機能

<サーバ製品> SORTKIT/Enterprise (SORTKIT for Server相当)
<クライアント製品> SORTKIT/Enterprise Client (SORTKIT for PC相当)
COBOL ソート・マージ Client (COBOL独自SORT相当)

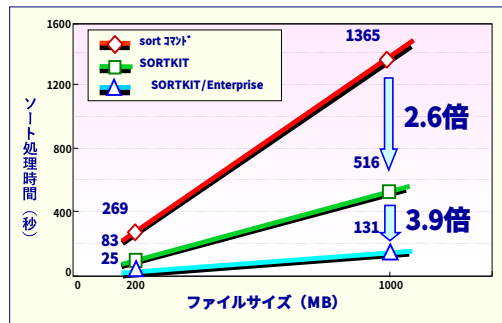
■ 大量データを高速処理するためのソート／マージユーティリティ(*1)

- COBOLの10進数形式はもちろん、多様なデータ形式に対応
- COBOLで扱うさまざまな符号化文字集合に対応
- 条件にあったレコードの選択・削除、ソート／マージ結果の編集など、ビジネス業務で高いパフォーマンスを発揮するための多彩な機能を搭載
- OS標準のsortコマンドに比べ、より速いソート処理を実現(参考：Windows時：約6.5倍)

イメージ図



Windows sortコマンドとの比較

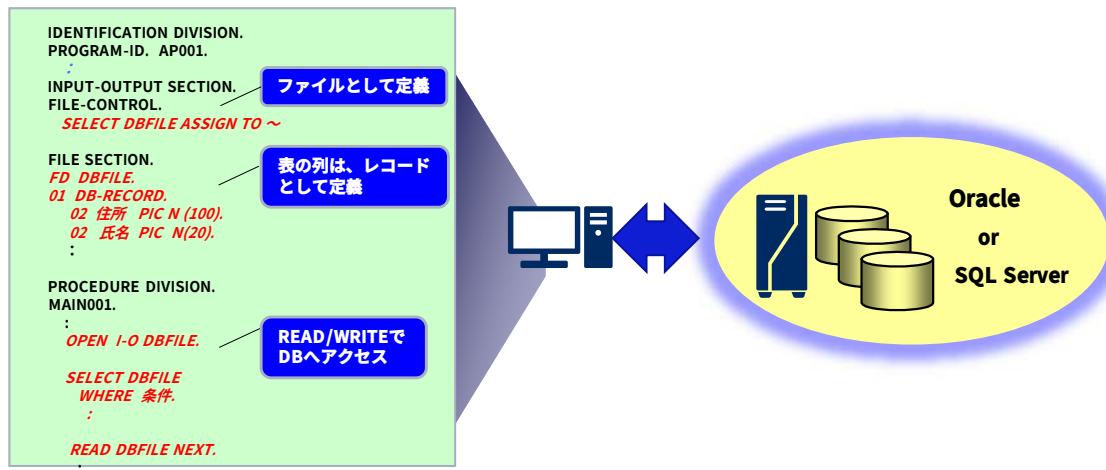


(*1) COBOL Standard EditionでSORT/MERGE文実行を利用する場合の必須PPとなります
高速処理が不要かつクライアントOSの場合は、「COBOL ソート・マージ Client」のご利用も可能です

2.7. データベース機能(1/3)

■ COBOL DBアクセス

- READ/WRITE文で、Oracle、SQL Serverへアクセスが可能
- メインフレーム・オフコンでも提供している機能であり、メインフレーム・オフコン上のCOBOLプログラム資産の流用が可能に
- データベース操作文として、SELECT/SCRATCH文(条件による絞込選択・開放)のほか、READ PRIOR(逆読み)、COMMIT/ROLLBACKなどの機能をサポート
- 排他制御は、OCF21やA-VXと互換あり



<参考>排他制御

■排他制御の変更は業務システムの運用に大きな影響を与えます

- COBOL Standard Editionでは、従来COBOLと運用・アプリケーションの見直しが不要

例えば、下記の動作・ふるまいまで従来COBOLと同様です

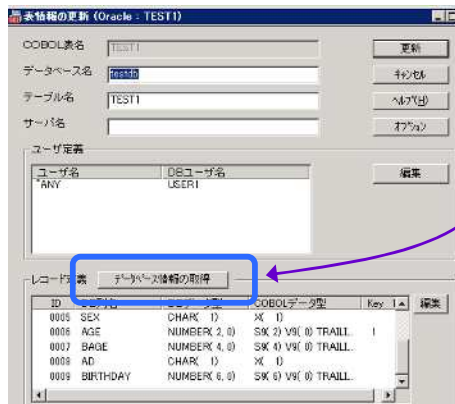
※特に「開放までWAIT」という仕様は、従来COBOL特有の動作

COBOL	ロック取得	既にロックされていたら
OPEN	表ロックを獲得	排他エラー返却
READ(I/O)	レコードロック獲得	開放までWAITする
READ(INPUT)	レコードロックしない	成功する
START	レコードロック獲得	開放までWAITする
SELECT	レコードロックしない	成功する

<参考>データベースの変更の場合の例

■ データベースの表の変更(列の追加など)にも柔軟に対処可能

- 例えば、テーブルに列の追加が必要になったときは・・・
 - データベースアクセス機能のツールで表の最新定義の取得を行うだけ。
 - 追加した列を参照していない(参照の必要のない)COBOLプログラムは修正不要。



更新情報の取り込み



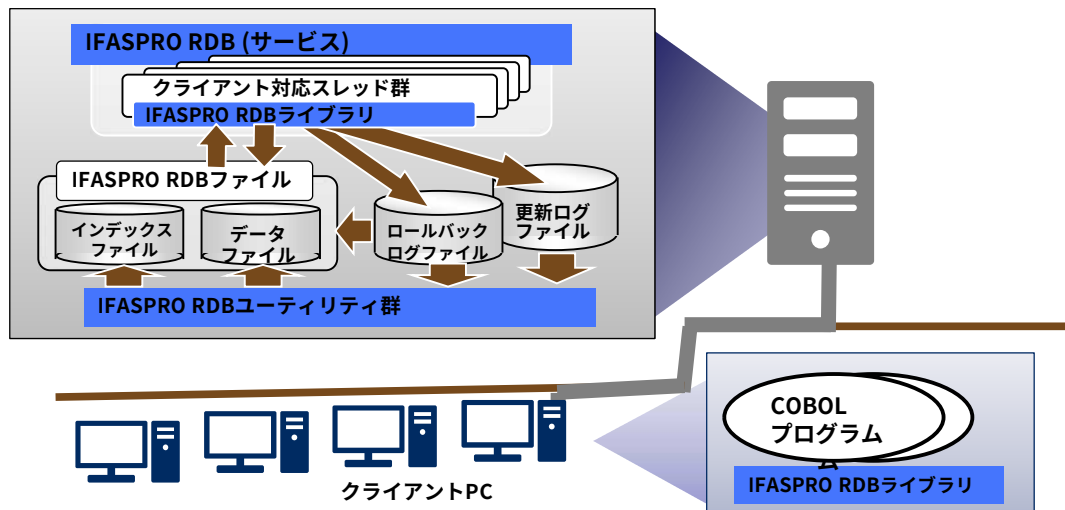
ここがポイント： 他ベンダーのCOBOLでは

- A-VX/RDBの排他制御の互換性をサポートする製品はありませんので、運用に大幅影響を与え、かつプログラム修正が必要となります
- READ/WRITEによるDBアクセス機能を標準でサポートしているCOBOLベンダーはありません。SIサービスによるマイグレーションの場合には、例えば、Oracleの列を増やしたいとき、それに関連して様々な修正が必要となるなど、保守性が著しく低下する場合があります

2.7. データベース機能(2/3)

■ IFASPRO RDB^{(*1)(*2)}

- A-VX/RDBと高互換性のCOBOLデータベースシステム
- COBOL Standard Edition、OCF21クライアントいずれからもアクセス可能
- COBOLからREAD/WRITEアクセス可。SELECT/SCRATCH、COMMIT/ROLLBACK等のデータベースアクセス機能をサポート
- 接続形態は、クライアント・サーバ型、Peer-To-Peer型、Stand-alone型に対応



(*1) Windows Server 2019以降はファイルメンテナ
ンスキット動作対象外のため、運用見直し要

(*2) クライアントスタンドアロンは動作対象外

2.7. データベース機能(3/3)

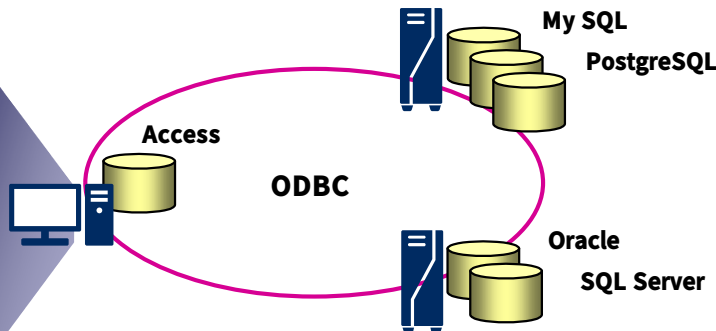
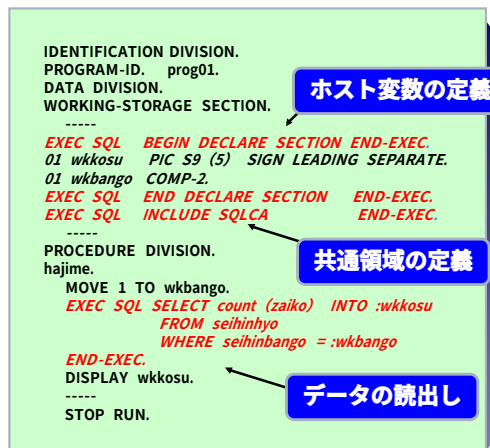
■ COBOL SQLアクセス

- COBOLから、ODBC対応のオープンデータベースをアクセス可能
- 世界標準ODBC(Open Database Connectivity) 3.5に準拠
- SQL文により、Oracle、SQL Server、Accessなどへアクセス可能



ここがポイント：
OCF21との違い

開発時はCOBOL Standard Editionのみで
テスト実行まで可能(個別インストール不要)



実行環境設定ツールによって、再コンパイルすることなく任意の異なるDBに接続先を切替え可能

<参考> 各データベース機能の違い

- 接続可能なDB、アクセス手法などに違いがあります。

	COBOL DBアクセス	IFASPRO RDB	COBOL SQLアクセス
機能	COBOLからREAD/WRITEにより、Oracle、SQL Serverにアクセスする機能	NEC製データベース。 COBOLからREAD/WRITEにより、アクセス可能	COBOLからSQLにより、ODBC経由でDBをアクセスする機能
接続可能なDB	Oracle、SQL Server	IFASPRO RDB	ODBC接続可能なすべてのDB
COBOLからの利用方法	READ/WRITE文	READ/WRITE文	SQL文
A-VXからの移行性	READ/WRITEをそのまま利用することができるので修正量は小	READ/WRITEをそのまま利用することができるので修正量は小	READ/WRITE文をSQL文に変更しなければならないので修正量は大
性能	Oracle、SQL Serverの性能をそのまま享受	Oracle、SQL Serverと比較すると速い	対応DBの性能をそのまま享受
運用ソフト	Oracle,SQL Serverの運用ソフト(サードパーティ製を含む)をそのまま利用可能	CSVインターフェースによりサードパーティ製のBIツール等を利用可能	対応DBの運用ソフト(サードパーティ製を含む)をそのまま利用可能
データ保護・セキュリティ	Oracle, SQL Serverのデータ保護・セキュリティ機能をそのまま享受	簡易データベースであるため、データ保護・セキュリティへの耐性は弱い	対応DBのデータ保護・セキュリティ機能をそのまま享受

2.8. 実行制御

■ A-VXと同じくホスト集中型の実行環境が構築可能

- COBOLアプリケーション実行環境が、制御変数 CBLRUN/CBLCHAIN/CBLSPAWNなど、従来COBOLのジョブ管理と同様な機能を提供

ジョブ管理機能	提供機能
ジョブ管理対象	COBOLアプリケーション(ジョブ)と、バッチファイル等が対象 (バッチファイルは、バッチ起動専用プログラムからの起動により管理対象としています)
スレッド制御	COBOLアプリケーションと、バッチファイルの制御(開始、継続、終了)を管理 WSエミュレータでの画面接続/切離、プログラム放棄/業務放棄なども可能
一時ファイル機能	システムサブルーチン、および、COBOL独自ファイル/IFASファイルや、IFASPRO RDBを用いて使用可能
制御変数 (JRCODE、センススイッチ)	バッチファイルにて、JRCODE(COMPLETION-CODE)や、センススイッチを評価、変更するコマンドを提供
システムサブルーチン	CBLRUN/SYSCCHAIN/SYSSPAWNなど、主要なシステムサブルーチンの機能を提供(名称やパラメータの見直しは必要)



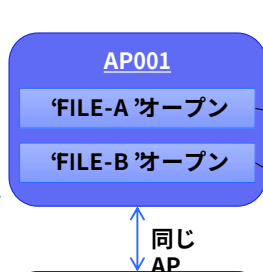
ここがポイント： 他ベンダーのCOBOLでは

- A-VXと同じホスト集中型の実行環境の構築は困難となります
- CBLRUN/SYSCCHAIN/SYSSPAWNなどのシステム制御の見直し、制御変数などの見直しが発生します

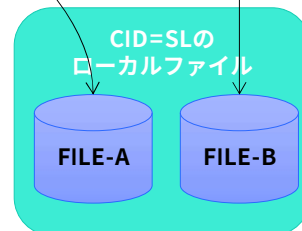
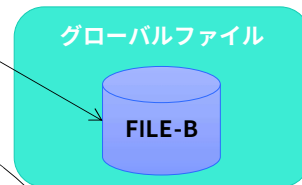
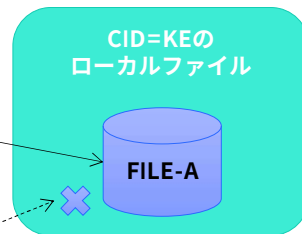
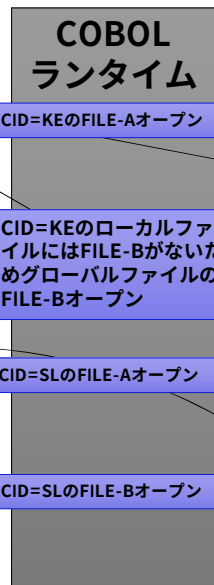
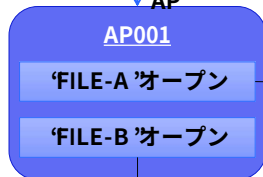
2.9 セキュリティ(内部ファイルID置換機能)

■ A-VXのCIDごとのローカルファイル相当の機能を提供

経理部Aさん
CID=KE



営業部Bさん
CID=SL



ここがポイント：

「COBOL A-VX互換機能/カンパニIDオプション」はCOBOL WSエミュレータを利用するサーバ集中型システムでサーバOSヘイストールすることを想定した製品です。

フ 自
ア C
イ I
ル D
に 以
は 外
ア の
ク ロー
セ カ
ス ル
不 可

(注意)

- ・あらかじめ、CID毎に、アクセスするファイル/DBがどれかを定義しておく必要があります
(「内部ファイル名置換表」「ファイルマップ」等)
- ・グローバルオペレータ機能(全てのローカルファイルを一度に参照する機能)はありません
- ・COBOL-APやSORTKIT以外ではこの機能は利用できません

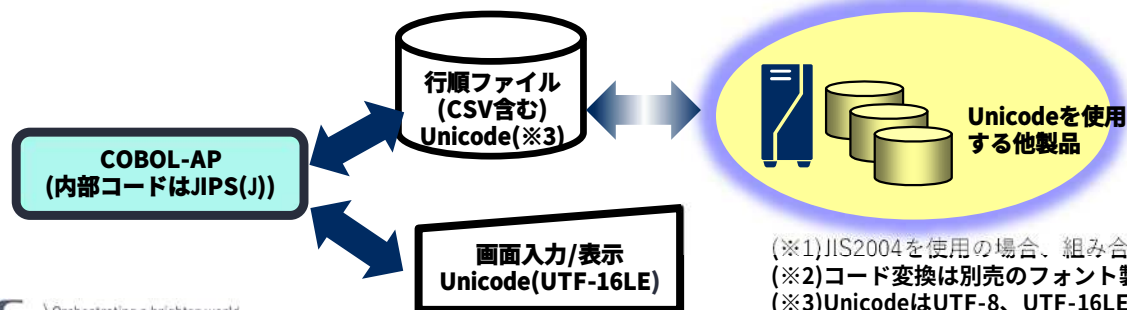
2.10. 特殊な文字コードを扱う機能(1/2)

■ 文字コード(内部コード)(※1)

- COBOLアプリケーションの内部コードにJIPSを使用可能
- 行順ファイル(テキスト形式, CSV形式)の入出力において、Unicode(UTF-8、UTF-16LE)とのコード変換を行うことで、JIS2004文字を使用可能(※2)
- 画面入力において、Unicode(UTF-16LE)からのコード変換を行うことで、JIS2004文字を使用可能 (※2)
- 画面出力において、Unicode(UTF-16LE)へのコード変換を行うことで、JIS2004文字を使用可能(※2)

■ 注意事項

- JIS2004文字は、CODE-SET句のある行順ファイル/CSVファイルの入出力、およびCOBOL WSエミュレータ経由で実行するCOBOL-APを除くCOBOL-APでの画面入出力でのみサポート (SYSIN/SYSOUT入出力では利用不可)
- COBOL WSエミュレータ経由で実行するCOBOL-APでは、JIS78文字 (外字含む) の入力・表示のみサポートし、また、COBOL-APからのCOBOL アプリケーション実行環境のプリンタ機能配下のプリンタへの印刷では、JIS78/JIS90文字 (G1集合文字含む) のみ印字可能
- COBOL-APからのプリントマネージャ経由での印刷も、JIS78/JIS90文字 (G1集合文字含む) の印字のみ可能



(※1) JIS2004を使用の場合、組み合わせて使用している関連製品もJIS2004対応製品が必要

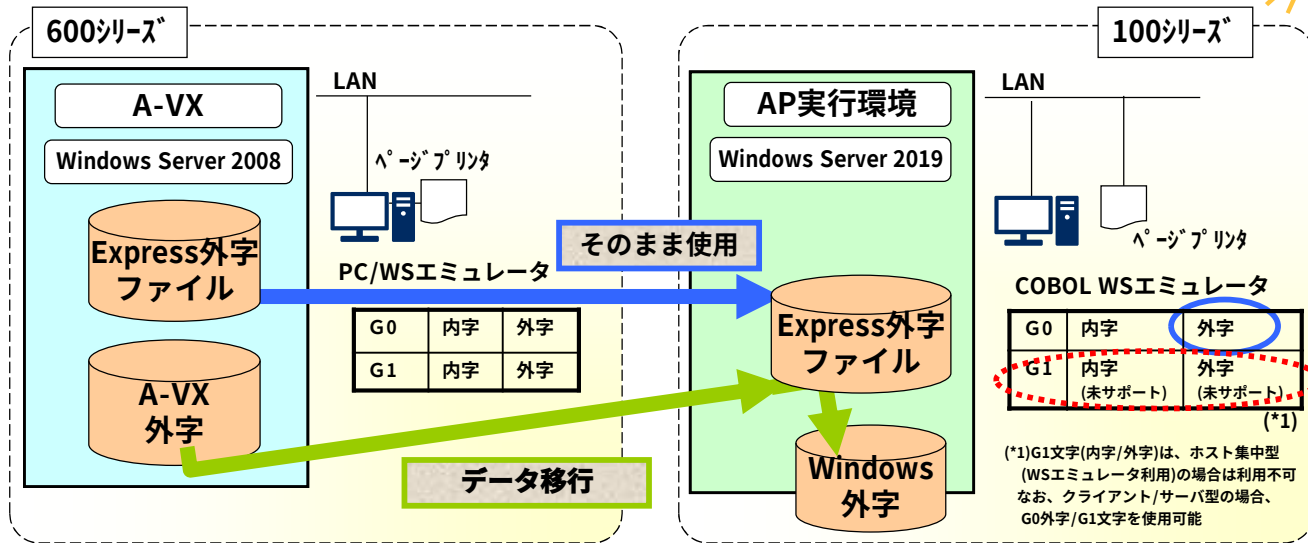
(※2) コード変換は別売のフォント製品「FontAvenue UniAssist コード変換」が必要

(※3) UnicodeはUTF-8、UTF-16LE

2.10.特殊な文字コードを扱う機能(2/2)

■ 文字(内字/外字)の画面入力/表示/印刷をサポート

- 既にExpress外字ファイルを使用している場合、そのまま使用可能
- A-VXと同様に、A-VX外字をExpress外字ファイル経由でWindows外字へ移行して、ExcelなどのWindowsのアプリケーションで使用可能



ここがポイント：
他ベンダーのCOBOLでは

外字対応の機能がないので、利用文字数に制限が出る場合があります

<参考> 互換性

■ COBOL Standard Edition は、従来COBOLと高い互換性を有しています。

- 言語仕様に現れない部分に関する実行結果の互換性もとしています。

例えば下記は言語仕様の的には不定ですが、同じ結果が得られるようにしています。

- 外部十進数の符号部分が空白(SPACE)値の演算結果
- 偶数桁の内部十進数の最上位バイトの上位4ビットが0の場合の演算結果
- 0で除算したときの商の結果
- 用途が表示用で、同桁数・同符号位置の十進数の転記
- 非整数外部10進数とZERO以外の表意定数の比較
- 算術式と英数字・英数字編集項目の比較
- 外部10進数の独立符号が空白である場合のNUMERIC検査

2.11. COBOL開発環境

■ COBOL開発環境

- COBOLアプリケーションの開発をサポートするWindowsの総合開発環境
- プログラムの作成からコンパイルまでの全ての作業をCOBOL開発環境上で行うことができるため、効率的な開発が可能
- Open COBOL Factory 21のWorkbenchなど、従来製品と共通のユーザインタフェースを採用

ビルド機能

コンパイルとリンクを行い、成果物を作成する機能

編集機能

専用のエディタによりCOBOLソースファイルの編集を行う

プロジェクト管理

成果物を作成するファイルの集まりを管理する機能

連携機能

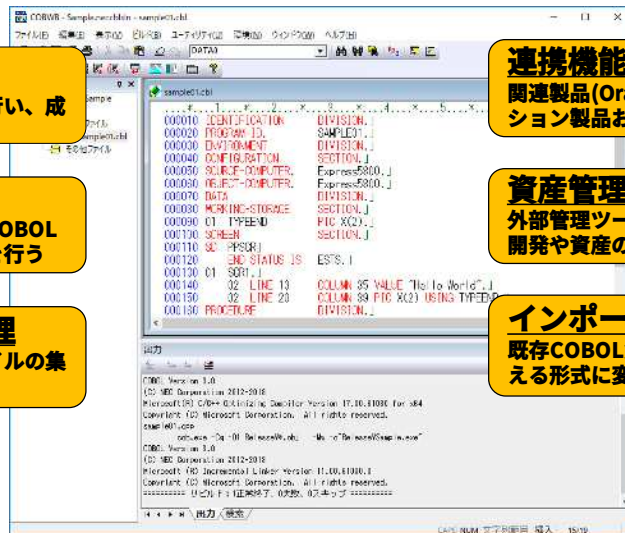
関連製品(Oracle Pro*COBOLなど)やオプション製品およびツールと連携する機能

資産管理^{*1}

外部管理ツールを利用して、複数人数での開発や資産のバージョン管理を行う機能

インポート機能

既存COBOL資産^{*2}をCOBOL開発環境で扱える形式に変換して取り込む機能



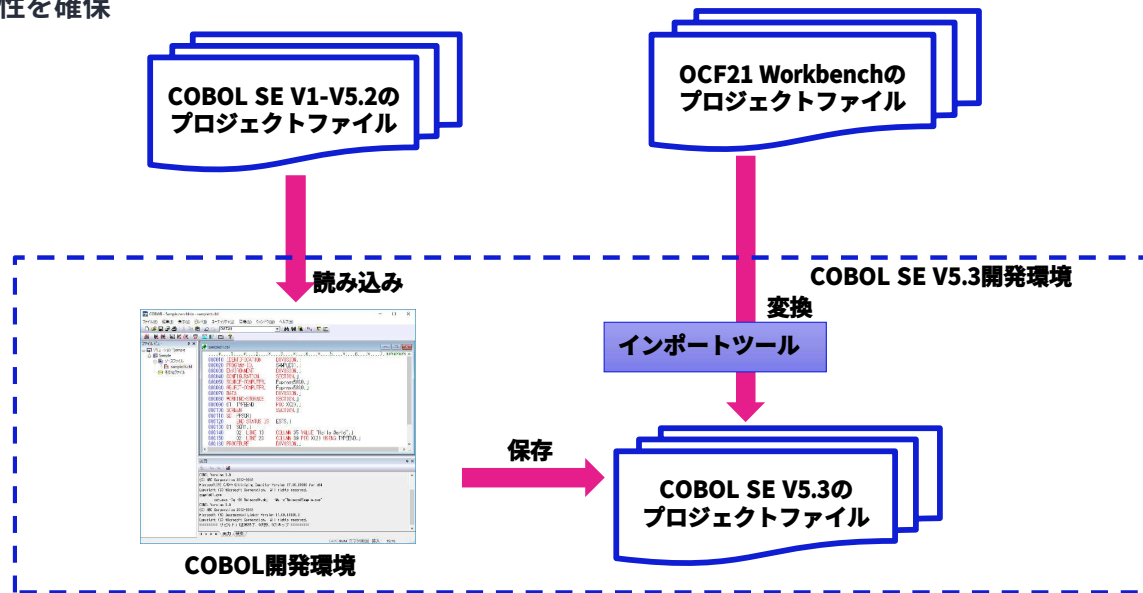
^{*1}:COBOL開発環境による外部ツールとの自動連携は未サポート

^{*2}:既存COBOL資産とは Open COBOL Factory 21製品で提供されている Workbenchのプロジェクトファイルやソースファイルを指す

<参考>プロジェクトファイルの互換性

■ プロジェクトファイルの互換性

- COBOL Standard Edition Ver1.0のVisual Studioアドイン形式のプロジェクトファイルと物理的な互換があるため、そのまま読み込みが可能
- 旧バージョンのプロジェクトファイルも、そのまま読み込み可能
- Open COBOL Factory 21のWorkbenchのプロジェクトファイルについて、COBOL開発環境に付属するインポートツールにより形式を変換することで互換性を確保



3. 従来COBOLからの移行における留意事項

3.1. COBOLの諸元比較

■ COBOL Standard Edition (COBOL SE)は、従来COBOLの各種諸元を凌駕

項目	COBOL SE	OCF21 / A-VX
翻訳可能なプログラム行数	制限なし	約65,000行
定義可能な利用者語の数	約550,000個	約5,000個
集団項目の最大長 ・ ファイル節 ・ 作業場所節	65,535バイト 2,147,483,647バイト	65,535バイト 65,535バイト
1項目の最大長	2,147,483,647バイト	32,767バイト
表の繰り返し回数 ・ ファイル節 ・ 作業場所節	65,535回 2,147,483,647回	32,767回 32,767回
表の1要素の最大長 ・ ファイル節 ・ 作業場所節	65,535バイト 2,147,483,647バイト	32,767バイト 32,767バイト

3.2. Open COBOL Factory 21製品との対応(1/2)

Open COBOL Factory 21 の製品(=OCF21)		COBOL Standard Edition体系での 対応製品/機能	備考
OCF21/COBOL85 Pro および COBOL85	→	COBOL Standard Edition Developer	開発環境+コンパイラ(+評価用ランタイム)
OCF21/COBOL OOEXTENSION	→		標準機能
OCF21/IFASPRO	→		標準機能
OCF21/COBOL85 View Generator	→		標準機能 (*1)
OCF21/COBOL85 SQLEXTENSION	→		標準機能 (*2)
OCF21/COBOL85 Proのランタイム製品	→	COBOL Standard Edition Server/Client Runtime	IFASPROの機能も包含
OCF21/WEBCOBOL	×	—	実現方法の見直しが必要です。
OCF21/COBOL Remote Workbench	×	—	外部の資産管理ツールとRDSを利用した開発方式で代替え
OCF21/ObjectPartner Pro	×	—	COBOL Enterprise Editionで既存COBOL資産をAPI(Javaから呼び出される部品)として動作させる機能提供
OCF21/COBOLCLINIC	×	COBOL Assistant Option	同等機能ではないが、開発・保守支援機能としてカバレッジ情報出力などの機能提供
OCF21/SORTKIT	×	—	SORTKIT/Enterprise、 COBOL ソートマージ Client で提供
OCF21/帳楽Ex	×	—	オープン帳票製品で再作成
OCF21/ブリ楽	×	—	//

(*1) 実行時にはCOBOL GUI Server RuntimeまたはCOBOL GUI Client Runtimeが必要

(*2) 実行時にはCOBOL SQLアクセス Server Runtime または COBOL SQLアクセス Client Runtimeが必要

3.2. Open COBOL Factory 21製品との対応(2/2)

OCF21のCOBOL関連製品		対応する製品/機能	備考
DBリンクキット	→	COBOL DBアクセス	拡張機能（オプション）
IFASPRO/RDB	→	IFASPRO RDB	拡張機能（オプション）
IFASPRO	→	COBOL Standard Edition	COBOL Standard Editionに包含
SORTKIT/Enterprise	→	SORTKIT/Enterprise for Windows	SORT文/MERGE文記述があり、サーバOSで動作させる場合必須
SORTKIT for Server SORTKIT for Terminal Services	→	SORTKIT/Enterprise for Windows	
SORTKIT for PC	→	SORTKIT/Enterprise Client for Windows COBOL ソート・マージ Client	SORT文/MERGE文記述があり、クライアントOSで動作させる場合、いずれか必須
アプリケーション実行環境	→	COBOL アプリケーション実行環境	拡張機能（オプション）
COBOL85システムサブルーチン	→	COBOL 拡張システムサブルーチン	拡張機能（オプション）
VISUALFORMS	→	VISUALFORMS	
TPBASE	×	—	COBOL Standard Editionからは利用不可。 COBOL Enterprise Editionのみ対応。
WebOTX	×	—	COBOL Standard Editionからは利用不可。 COBOL Enterprise Editionのみ対応。（時期未定）
Oracle Pro*COBOL	→	Oracle Pro*COBOL	

3.3. OCF21からの移行上の注意事項 (COBOLプログラム)

■ 未サポートの機能

機能	内容	代替方法/機能など
通信機能	未サポート	プログラムロジックの見直しが必要です
システムサブルーチン	未サポートのルーチンやパラメータ非互換あり	プログラムロジックの見直しが必要です
ファイルステータス74	ファイルステータスをCOBOL74規格とする機能は未サポート	COBOL85規格のファイルステータスで判定するよう、プログラム修正が必要です

■ OSの違いにより動作が変わる機能（代表的なもの）

機能	内容	代替方法/機能など
特殊レジスタ	既定値や仕様が異なるものがあります	値の設定・参照箇所の見直しが必要です
環境変数	環境変数の名称が変更になるものがあります	バッチやシステムの設定値変更が必要です

■ 書き方が変わる機能（代表的なもの）

機能	内容	代替方法/機能など
ファイル機能（順）	ASSIN句などの書き方が一部異なります(COBOL Standard Editionでは内部ファイル名の文字列に 'SIN' および 'SPR' は記述できないなど)	INPUT-OUTPUT節のFILE-CONTROL段落、I-O-CONTROL段落の修正が必要となります(語句の置き換えレベルです)

3.3. OCF21からの移行上の注意事項 (COBOLオプション機能)

■ 利用している機能によっては見直しが必要となるもの (例)

機能	内容	代替方法/機能
WEB機能(WEBCOBOL相当機能)	WEBCOBOL未サポート	実現方法の見直しが必要になります
帳票	OCF21/帳楽Ex, OCF21/プリ楽は未サポート	実現方法の見直しが必要になります
コンポーネント生成	ObjectPartner Proは未サポート	COBOL EEを導入してください
アプリケーションサーバ連携	WebOTX連携は未サポート	COBOL EEを導入してください
OLTP連携	Oracle TUXEDO,TPBASE連携は未サポート	COBOL EEを導入してください



ここがポイント： 参考資料

COBOLのOpen COBOL Factory 21との仕様互換性に関しては、参考資料のご提供が可能です。NECの営業窓口経由でお問い合わせください

3.4. A-VXから移行される場合の留意事項

■ 留意事項

- A-VXからのオープン化では、COBOLプログラムのみではなくデータファイルの移行、帳票、画面などシステム全体をWindowsにおいてどのように実現するか(どのような関連製品を利用するのか)の検討が必要になります。NEC営業経由で移行ご検討用の参考資料はご提供が可能です。NEC営業または販売店へ
「NECのCOBOL製品を利用したA-VXからの資産移行に関する参考資料を入手したい」
のようにご相談いただきますようお願いいたします。
- COBOL Standard Editionをはじめとするソフトウェア製品につきましては、各製品のサイトから製品ご購入前のお問い合わせの対応や、ご購入後のサポートサービス(PP・サポートサービス)を提供しております。

3.5. A-VXからの移行ご検討用参考資料の例

■ ご案内可能な検討資料等の一部をご紹介します。なお、一部資料は情報が古くなっている可能性がありますため、入手時にご確認をお願いいたします。

- A-VXマイグレーションご紹介資料
- A-VX RDBとオープンDB機能比較資料
- A-VX→Windows移行ガイド
- A-VXマイグレーションでの印刷環境
- A-VX COBOL85ーCOBOL SE機能差分
- COBOLシステムサブルーチン対応表
- プリンタ制御コード対応表

3.6. 移行上の注意事項(全体)

■ システム全体に関するもの

機能	内容	代替方法/機能など
データアクセス	A-VXのカンパニID同等機能がない	・ COBOL A-VX互換機能/カンパニIDオプションを利用することで可能
WSエミュレータ	A-VX版WSエミュレータと同等でない（再接続キットなし、PRN100番台のWSエミュレータからの印刷は未サポートなど）	・ A-VXのPC/WSエミュレータ相当の提供をCOBOL WSエミュレータとして提供 ・ WSエミュレータからの印刷はWindows標準スプーラ(従来変換)／PRN300番台を使用することにより代替可能
RDBサーバ	A-VX RDBの移行先がIFASPRO RDBの場合 ・ RDBへのODBC接続機能がない ・ SKYLINKなどとの接続機能がない	IFASPRO RDBのユーティリティにてデータをCSV化することにより、オープン系BIツールの利用が可能
運用管理	A-VXの拡張システムコマンドや統合管理機能のような機能がない	・ COBOL DBアクセス機能にて、AP名などの確認が可能
通信機能	COBOLで通信節がサポートされていない。	通信機能を別途作成(用意)し、COBOLから呼び出すようにする必要あり
大規模構成	1サーバで集中管理可能なプリンタは300台まで(接続形態毎に100台までの上限あり)	接続形態を変えれば300台まで接続可能。それ以上の場合には、APサーバの分割、または、COBOL-APの実行形態をクライアント・サーバ型で構成するなどの変更が必要

3.7. 移行上の注意事項 (COBOLプログラム)(1/2)

■ 未サポートの機能

機能	内容	代替方法/機能など
報告書機能	未サポート	OPEN、WRITE、CLOSEを使ってプログラムロジックを書き直す必要があります
デバッグ機能 (USE FOR DEBUGGING)	未サポート	USE FOR DEBUGGING節を削除します
システムサブルーチン	グラフィック系ライブラリなどサポートしていないシステムサブルーチンがあります	プログラムロジックの見直しが必要です

■ OSの違いにより動作が変わる機能(代表的なもの)

機能	内容	代替方法/機能など
データの初期値	VALUE句が書かれていないデータの初期値が保証されない場合があります。	VALUEオプション(-v)を指定することにより初期値を保証できます(さらに文字コードに合わせて文字定数の16進表記への変更が必要な場合あり)
特殊レジスタ(COMPLETION-CODE)	プログラムの終了状態はWindows OSの仕様に準拠となります	値の設定・参照箇所の見直しが必要です
日付(ACCEPT文)	システム日付の取得は西暦のみとなります。	和暦を使用しているシステムは西暦への見直しが必要です
データ例外	不正10進例外の発生パターンが変わります また、ALTER ERROR文はメモ扱いとなります。	A-VXでデータ例外となっていたデータが例外となくなる場合があります(逆もあり) ※不正10進でないデータは問題ありません

3.7. 移行上の注意事項 (COBOLプログラム)(2/2)

■ 書き方が変わる機能(代表的なもの)

機能	内容	代替方法/機能など
ファイル機能(順、相対、索引)	ASSIN句などの書き方が一部異なります。(COBOL Standard Editionでは内部ファイル名の文字列に 'SIN' および 'SPR' は記述できないなど)	INPUT-OUTPUT節のFILE-CONTROL段落、I-O-CONTROL段落の修正が必要となります(語句の置き換えレベル)
日本語情報処理機能	ひらがな定数(NH),カタカナ定数(NK),日本語索引コード、索引定数は指定不可	日本語定数(NC '〜')へ修正
プリンタ機能(スプール機能)	システムサブルーチン 'SYSSPOOL' は、使用不可	'CBLSPPOOL' に置き換えが必要

■ 利用している機能によっては見直しが必要となるもの(例)

機能	内容	代替方法/機能など
画面機能	0行目の表示は動作保証なし、画面制御コードによるブザー鳴動はCOBOL WSエミュレータ未使用の場合に機能提供なし、HIGH-INTENSITY属性の指定不可など (他にもあります)	プログラムの見直しが必要
プリンタ機能(スプール機能)	スプールファイルの登録は、システムスプールファイル、ユーザスプールファイルを合わせて1000レポートまでです。上書きなどはできません。	スプールマネージャユーザインタフェースの画面から、随時不必要なレポートを削除してください。
プリンタ機能(スプール機能)	スプールファイルのOPEN及びCLOSEコマンドで、印字データのWRITEコマンドが実行されない場合も、スプールファイルを生成します。	スプールマネージャユーザインタフェースの画面から、随時該当するレポートを削除または、プログラムの見直しが必要



ここがポイント： 参考資料

COBOLの従来COBOLとの仕様互換性に関しては、参考資料をご提供が可能です。NECの営業窓口経由でお問い合わせください

4. COBOL Standard Edition機能紹介

新たな機能

4.1. 最新規格対応

■ サポートした第4次規格

項	規格	対応状況
1	コンパイル時指示機能	○ (一部機能のみ)
2	自由形式の正書法	○
3	ビット操作機能	○ (NEC独自仕様でサポート)
4	漢字等の多オクテット文字機能	○ (NEC独自仕様でサポート)
5	浮動小数点データ操作機能	△ (対応時期未確定)
6	ポインタ項目とアドレス付け機能	○ (NEC独自仕様でサポート)
7	利用者定義のデータ型機能	△ (対応時期未確定)
8	利用者定義の関数機能	○
9	ファイルの共用と排他制御の機能	○ (NEC独自仕様でサポート)
10	画面処理機能	○ (NEC独自仕様でサポート)
11	例外割り込み処理機能	○ (NEC独自仕様でサポート)
12	データの妥当性検査機能	△ (対応時期未確定)
13	オブジェクト指向機能	○
14	言語間連絡の拡張	○
15	標準算術演算と31桁への拡張	△ (対応時期未確定)
16	その他 (POSIXのロケールに対応した地域・文化固有機能)	△ (対応時期未確定)

※第5次規格については対応時期未確定

4.2. オブジェクト指向機能

■ オブジェクト指向の概念を言語としてサポート

- 手続き型言語と言われていたCOBOLが大きく進化

IDENTIFICATION DIVISION.
CLASS-ID. ～.

クラス定義

IDENTIFICATION DIVISION.
METHOD-ID. ～.

メソッド定義

- カプセル化
- 継承
- ポリモーフィズム

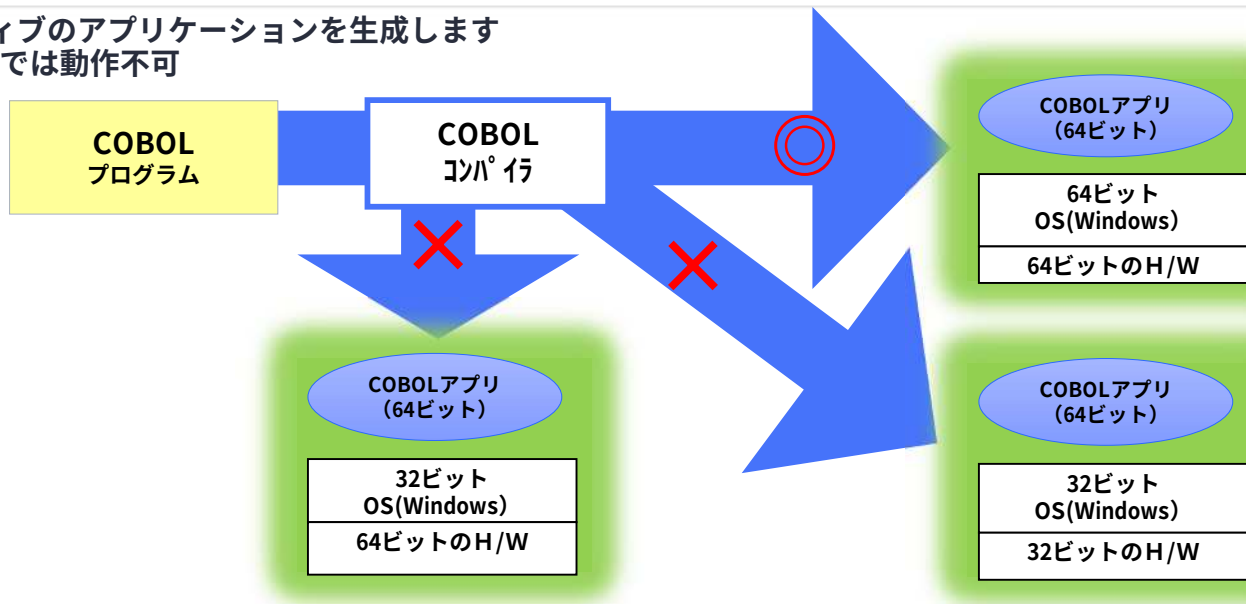
■ オブジェクト指向概念が導入されたことによるメリット

- 他言語からCOBOLで作られたクラス・オブジェクトを利用可能
 - Visual C++からCOBOLで作成されているクラスやメソッドを利用することが可能^(*1)
- COBOLの業務ロジックをカプセル化し、他言語から利用可能
 - COBOLが得意な事務処理系業務をクラスやオブジェクトとして作成・公開することにより、COBOLでも他言語でもどちらでも利用可能なモジュールの開発が可能

(*1) C++のソースファイルにCOBOLのヘッダファイル等をインクルードをする必要があります。

4.3. 64ビット対応

- 64ビットネイティブのアプリケーションを生成します
 - 32ビットOS上では動作不可

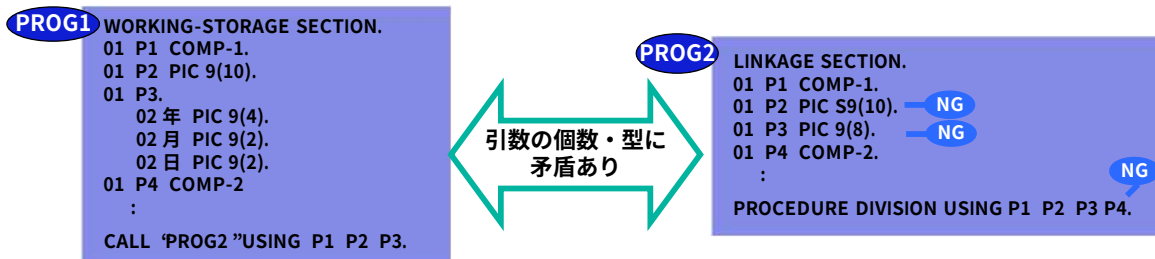


- 注意事項
 - 32ビットと64ビットでは、ポインタデータ項目など、データ項目の割り付けサイズや諸元が異なります。このため32ビットで動作していたAPを64ビットで動作させる為には、AP全体の見直しが必要となる場合があります。また、COBOL-APから他言語で作成したAPを呼び出している場合には、そのAPもCOBOL-APに合わせて64ビット化しておく必要があります。

4.4. 外部リポジトリ機能

■ 従来COBOLでの翻訳時の課題

- CALL文でサブプログラムを呼び出す場合、呼び出し側の引数の個数・型や返却項目の型と、呼び出される側の引数の個数・型や返却項目の型が一致しているか翻訳時にチェックをする方法がなかった。
- このため、呼び出し側と呼び出される側の引数に矛盾があり、実行時に呼び出しに失敗したり、呼び出しに成功しても期待どおりの実行結果とならず、問題の特定に時間がかかることがあった。



■ 外部リポジトリ機能を利用すると

- CALL文など(*1)の翻訳時に呼び出し側と呼び出される側の引数の個数・型などの記述が一致しているかをチェックすることが可能(*2)

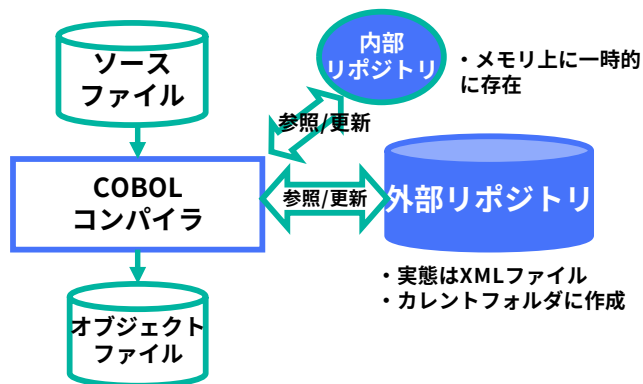
(*1)利用者定義関数、INVOKE文の引数チェックや、メソッド、プロパティメソッドの定義がOVERRIDE元と一致しているかなどのチェックも可能

(*2)引数個数・型を意図的に変えている場合には、チェックを無視して翻訳をすすめることも可能

(解説) リポジトリ情報とは・・・

■ リポジトリ情報とは

- この翻訳時チェックを可能とするためには、**引数の個数・型などの定義情報**が必要であり、この情報を**リポジトリ情報**という。
- リポジトリ情報は、翻訳中、クラスや利用者定義関数などの定義が出現するごとにコンパイラメモリ中に一時的に生成され、翻訳が完了すると、物理ファイルに書き出される。
- 一時的に生成されるリポジトリ情報を内部リポジトリ、**物理ファイルに書き出されたりリポジトリ情報を外部リポジトリと呼ぶ。**

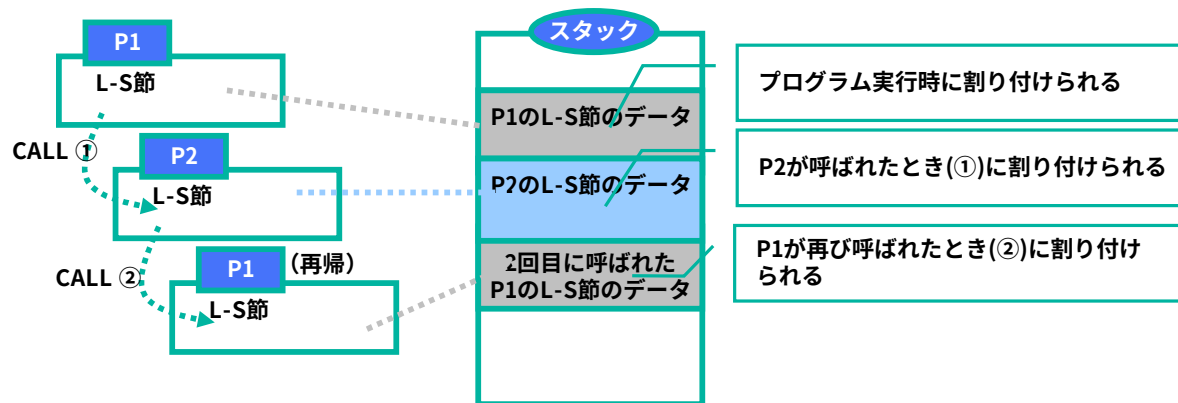


■外部リポジトリファイルの生成タイミング

操作	リポジトリ操作内容
作成/更新	プログラム原型定義、他のソース単位に内包されないプログラム定義(※)、関数原型定義、関数定義、クラス定義を翻訳した際、 翻訳オプション-CG を指定しており、かつコンパイラが 正常終了した場合 に、カレントフォルダに作成／更新される。 (※)-M(メインプログラム)指定されたプログラム定義を除く
参照	リポジトリ段落でプログラム指定子、関数指定子、クラス指定子が記述されており、内部リポジトリ情報上に該当リポジトリ情報がない場合に参照される（参照されたりリポジトリ情報は内部リポジトリ情報に追加される）。
削除	コンパイラは削除しない。不要な場合には利用者が削除する必要がある。

4.5. 局所記憶節 (LOCAL-STORAGE SECTION)

- プログラムが実行されるときに割り付けられるデータ領域の定義
主に、再帰プログラムで使われる機能^(*1)



- 作業場所節と同じく初期値データ (VALUE句) を指定可能
- 注意事項
 - 実際のデータ割付場所は、スタック上となります。

(*1)ACOS4 COBOL85の AUTOMATIC節に相当する機能

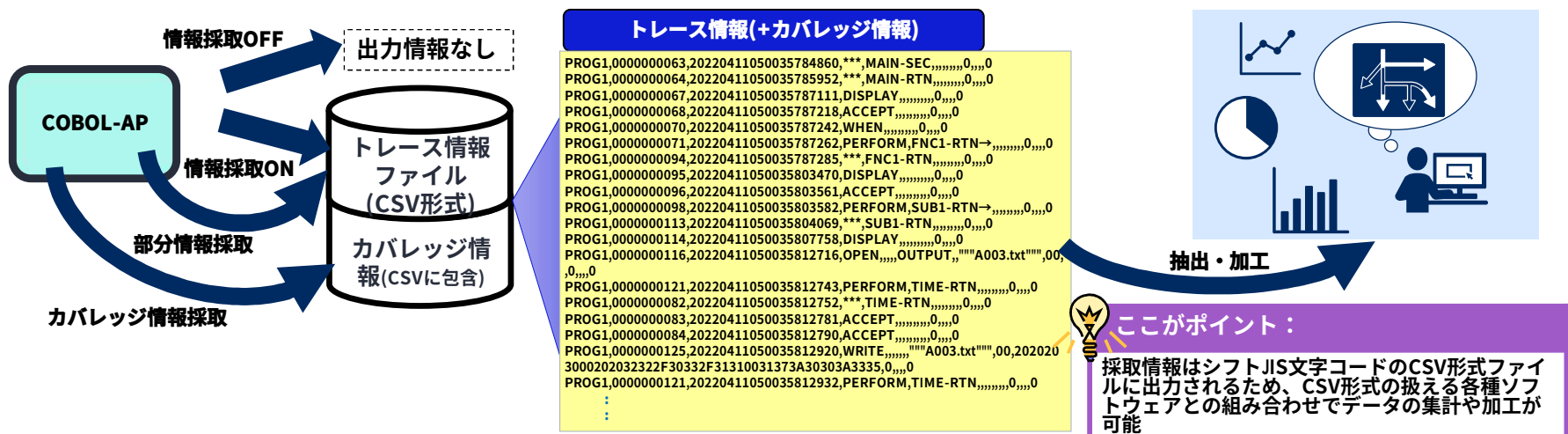
4.6. 開発/保守支援機能(1/3)

関連製品：

・ COBOL Assistant Option

■ 実行トレース・レコードダンプ機能

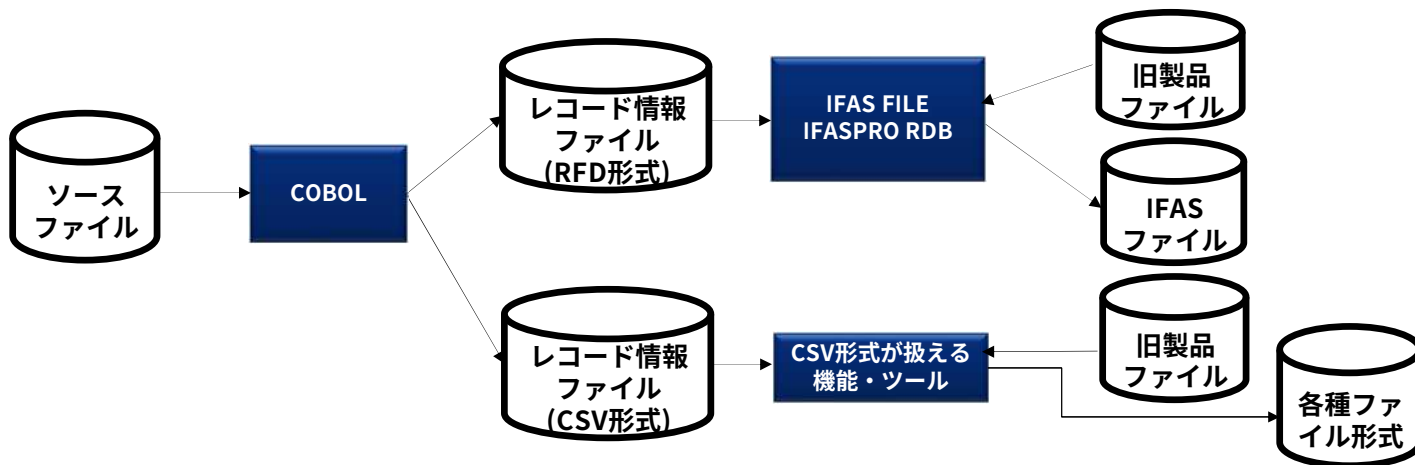
- COBOLアプリケーションの実行トレースおよびファイル入出力文のレコードダンプ情報の採取により、障害発生箇所の絞り込み手段として活用可能
- V3.0以降で作成したCOBOLアプリケーションは、リコンパイルや製品モジュールの変更なく、情報採取のON/OFFおよび採取情報レベルの切替が可能
- V4.0以降ではCOBOL Assistant Optionにより、カバレッジ測定のための情報採取が可能。また、COBOLソース単位でトレース出力のON/OFF切り替えが可能
- V5.0以降ではCOBOL Assistant Optionにより、トレース情報に通過時刻情報の出力で実行性能解析を支援
- V5.2以降ではトレース情報を共用モードで出力するため、テキストエディタ等で中間状況の確認が可能



4.6. 開発/保守支援機能(2/3)

■ ファイル入出力記録情報生成機能

- COBOLソースファイルに記述されたファイル入出力レコードの定義情報を生成
- 出力形式は、IFAS FILE/IFASPRO RDBがサポートするRFD形式と他言語への移行性を考慮したCSV形式を提供
- CSV形式が扱える機能・ツールによるファイルの表示(確認)・編集、CSV形式のファイルに基づいて旧ファイル形式から新ファイル形式へデータ変換や表定義プログラムの作成も可能



4.6. 開発・保守支援機能(3/3)

■ データレコード情報出力機能

- COBOLソースファイルのPROCEDURE DIVISIONのUSING句に記述されているデータの定義情報を生成することが可能
- 他言語/他製品への移行性を考慮したCSV形式に対応
- 複雑なデータ定義を可視化することで、他言語との親和性を向上



5. V5.2→V5.3の強化機能

5.1. 強化機能一覧

■ 動作環境対応強化

- IFASPRO RDB V2.1に対応

■ その他の機能強化・制限解除

- 言語仕様に基づいたチェックの厳密化によるプログラミングミスの防止
 - 順ファイル、行順ファイル、整列併合ファイルの「ファイル識別リテラル-装置名」で装置名が「UFS」の場合コンパイルエラーとする

6. 製品体系・価格

6.1 製品体系

■ 基本製品

・ 開発環境・マニュアル

	型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
VerUP	UL1387-B0K	COBOL Standard Edition Developer	350,000	COBOLコンパイラ、開発環境、ランタイム(評価用)一式。WindowsサーバOS、PC(クライアントOS)で動作するCOBOLアプリケーション開発用。インストール単位(マシン単位)に1本必要。WindowsサーバOS、PC(クライアントOS)のいずれかにインストール可。Visual Studio(別売)が必要。インストール媒体(COBOL Media)、COBOL言語説明書同梱
VerUP	UL9387-B0D	COBOL 言語説明書	価格改定 20,000	COBOL言語説明書(COBOL言語説明書は、著作権上CD-ROM媒体からの参照のみ可能 複数冊必要な場合は、必要数をご購入ください
VerUP	UL1387-B0B	COBOL Media	価格改定 20,000	COBOL 製品のインストール媒体(COBOL Enterprise Editionと共通媒体)。COBOL Standard Edition Developerにも添付
	UL1065-202	COBOL Media Option	10,000	COBOL アプリケーション実行環境、COBOL 拡張システムサブルーチン、COBOL WSエミュレータのインストール媒体

・ COBOL実行環境

	型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
VerUP	UL1387-B0L-I	COBOL Standard Edition Server Runtime	550,000	COBOL Standard Edition Developerで開発したCOBOLアプリケーションを、WindowsサーバOSで実行する場合に必要なランタイム製品。2コアにつき1本必要 インストール媒体無し。COBOL Standard Edition Developerに同梱のインストール媒体をご利用可能です。または、COBOL Media を別手配で用意してください
VerUP	UL1387-B0M-I	COBOL Standard Edition Client Runtime	65,000	COBOL Standard Edition Developerで開発したCOBOLアプリケーションを、PC(クライアントOS)で実行する場合に必要なランタイム製品。インストール単位(マシン単位)に1本必要 インストール媒体無し。COBOL Standard Edition Developerに同梱のインストール媒体をご利用可能です。または、COBOL Media を別手配で用意してください Remote DesktopやWSエミュレータで利用される場合、クライアントOS分、本製品の購入が必要

- 開発・保守支援

- カバレッジ情報出力、データレコード情報生成などの支援機能

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1387-80AA-I	COBOL Assistant Option	100,000	カバレッジ情報出力、データレコード情報出力などの支援機能を使う環境ごとに1本必要

■ データベース関連

- IFASPRO RDB

- A-VX/RDBと高い互換性を持つNEC製データベース

	型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
VerUP	UL1019-206	IFASPRO RDB	300,000	NEC製リレーショナルデータベース。Windowsサーバ上でのみ動作。IFASPRO RDBをアクセスするCOBOLアプリケーションをWindowsサーバOS上で実行する場合に必要なランタイム製品を同梱。インストール媒体同梱。2コアにつき1本 必要
VerUP	UL1019-207-I	IFASPRO RDB Server Runtime	80,000	IFASPRO RDBをアクセスするCOBOLアプリケーションをWindowsサーバOS上で実行する場合に必要なランタイム製品インストール媒体無し。IFASPRO RDBに同梱のインストール媒体をご利用可能です。インストール単位(マシン単位)に1本必要
VerUP	UL1019-208-I	IFASPRO RDB Client Runtime	50,000	IFASPRO RDBをアクセスするCOBOLアプリケーションをPC(クライアントOS)上で実行する場合に必要なランタイム製品インストール媒体無し。IFASPRO RDBに同梱のインストール媒体をご利用可能です。Remote DesktopやWSエミュレータで利用される場合、データベースアクセスを実行するクライアントOS分、本製品の購入が必要

- COBOL DBアクセス

- READ/WRITE文で、Oracle, SQL Serverへのアクセスが可能に

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1575-101	COBOL DBアクセス for Oracle	80,000	COBOLからREAD/WRITEによってOracle DBをアクセスする機能。 WindowsサーバOS上で動作。2コアにつき1本 必要 インストール媒体は同梱
UL1575-004	COBOL DBアクセス for SQL Server	80,000	COBOLからREAD/WRITEによってSQL Server DBをアクセスする機能。 WindowsサーバOS上で動作。2コアにつき1本 必要 インストール媒体は同梱
UL1575-102	COBOL DBアクセス Server Runtime	50,000	サーバ上のCOBOLから別サーバの COBOL DBアクセス ヘアクセスする機能。 WindowsサーバOS上で動作 インストール媒体は非同梱。COBOL DBアクセス for Oracleまたは、COBOL DBアクセス for SQL Serverの媒体を利用 インストール単位(マシン単位)に1本必要
UL1575-103	COBOL DBアクセス Client Runtime	30,000	クライアント上のCOBOLからサーバの COBOL DBアクセス ヘアクセスする機能。クライアントのWindows OS上で動作 インストール媒体は非同梱。COBOL DBアクセス for Oracle または、COBOL DBアクセス for SQL Serverの媒体を利用 Remote DesktopやWSエミュレータで利用される場合、データベースアクセスを実行するクライアントOS分、本製品の購入が必要

- COBOL SQLアクセス

- SQL文で、ODBC対応のデータベースへのアクセスが可能に

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1387-50U-I	COBOL SQLアクセス Server Runtime	300,000	COBOL Standard Edition で開発したODBC接続のデータベースを利用するCOBOL-APをサーバOSで実行する場合に必要な 2コア単位ライセンス 媒体・マニュアル非同梱。
UL1387-50V-I	COBOL SQLアクセス Client Runtime	30,000	COBOL Standard Edition で開発したODBC接続のデータベースを利用するCOBOL-APをクライアントOSで実行する場合に必要。 媒体・マニュアル非同梱 COBOL WSエミュレータ、Remote Desktopで利用される場合、クライアント側接続台数分、本製品の購入が必要

※上記製品を利用してDBアクセスするCOBOL-APを開発する機能（SQL文でのDBアクセス）は、COBOL Standard Edition標準機能です。

■ COBOL関連製品

- ・ ソート・マージユーティリティ
- ・ 外部10進数などCOBOL特有のデータ属性をキーとしてのソート・マージが可能

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1200-K04-I	SORTKIT/Enterprise for Windows	500,000	ソートマージ・ユーティリティ。WindowsサーバOS上で動作。COBOL Standard Edition Developerで開発したCOBOLアプリケーションでソート・マージ機能を利用し、WindowsサーバOSで実行する場合に必要。4コアまでのライセンスを含むインストール媒体を同梱
UL1200-K0D-I	SORTKIT/Enterprise for Windows (追加CPUライセンス)	250,000	ソートマージ・ユーティリティ。WindowsサーバOS用の追加ライセンス。2コアごとに1本必要
UL0200-604-I	SORTKIT/Enterprise Client	148,000	ソートマージ・ユーティリティ。PC(クライアントOS)用。COBOL Standard Edition Developerで開発したCOBOLアプリケーションでソート・マージ機能を利用し、PC(クライアントOS)で実行する場合に必要。インストール単位(マシン単位)に1本必要。インストール媒体を同梱
UL0200-105-I	COBOL ソート・マージ Client	70,000	PC(クライアントOS)用。COBOL Standard Edition Developerで開発したCOBOLアプリケーションでソート・マージ機能を利用し、PC(クライアントOS)で実行する場合に必要。インストール単位(マシン単位)に1本必要。インストール媒体を同梱 コマンドのサポートなし(COBOLアプリケーションでソート・マージを実行する機能のみ提供)

- COBOL帳票の電子化

- プログラムを修正することなく、出力帳票の電子化（PDF化など）が可能

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1212-X01	Printview for アプリケーション実行環境	280,000	COBOL アプリケーション実行環境が出力する帳票データを電子化する機能を提供。WindowsサーバOS上で動作。インストール単位(マシン単位)に1本必要。インストール媒体を同梱
UL1212-806	Printview DeliveryServer for アプリケーション実行環境	200,000	Printviewの配信機能を強化(文書を仕分けし、メールやFAX配信等が可)。WindowsサーバOS上で動作。インストール単位(マシン単位)に1本必要。インストール媒体を同梱

- ISAM

- 索引順編成ファイルを操作する機能を提供

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1254-101	ISAM V1.1	200,000	索引順編成ファイル管理を行う製品。WindowsサーバOS、PC(クライアントOS)で動作する。2コアまでのライセンスを含む。インストール媒体を同梱 Remote DesktopやWSエミュレータでPCから利用する場合、PCの台数に応じた管理ノード追加ライセンス(UL1254-103-I)が必要
UL1254-102-I	ISAM 追加1ライセンス V1.1	70,000	UL1254-101の追加ライセンス。2コアごとに1本必要
UL1254-103-I	ISAM 管理ノード追加1ライセンス V1.1	130,000	UL1254-101 の管理ノード追加ライセンス

■ 拡張機能

- COBOL画面 GUI化機能
 - 画面節(SCREEN SECTION)をそのままビジュアルなGUI画面に

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1387-50P-I	COBOL GUI Server Runtime	300,000	COBOL Standard Edition Developerで開発したCOBOL GUIアプリケーションを、WindowsサーバOSで実行する場合に必要なランタイム製品。2コアにつき1本 必要 インストール媒体無し。COBOL Standard Edition Developerに同梱のインストール媒体をご利用可能です。または、COBOL Media を別手配で用意してください
UL1387-50S-I	COBOL GUI Client Runtime	30,000	COBOL Standard Edition Developerで開発したCOBOL GUIアプリケーションを、PC(クライアントOS)で実行する場合に必要なランタイム製品。インストール単位(マシン単位)に1本必要 インストール媒体無し。COBOL Standard Edition Developerに同梱のインストール媒体をご利用可能です。または、COBOL Media を別手配で用意してください Remote DesktopやWSエミュレータで利用される場合、クライアントOS分、本製品の購入が必要

※上記製品を利用してCOBOL画面のGUI化を行うアプリケーションを開発する機能は、COBOL Standard Edition標準機能です。

■ A-VX互換関連

・ COBOL アプリケーション実行環境

・ A-VXと同等の実行制御・プリンタ管理・WSエミュレータ機能をサポート

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1015-103	COBOL アプリケーション 実行環境 Server	120,000	COBOLのジョブ管理機能、プリンタ機能、コンソール用のWSエミュレータ機能を提供。WindowsサーバOS上で動作。 2コアにつき1本 必要。インストール媒体は、COBOL Media Option(別手配)が必要。
UL0015-104	COBOL アプリケーション 実行環境 Client	30,000	COBOLのジョブ管理機能、プリンタ機能を提供。クライアントのWindows OS上で動作。 インストール単位(マシン単位)に1本必要。インストール媒体は、COBOL Media Option(別手配)が必要。 Remote Desktopで利用される場合、クライアントOS分、本製品の購入が必要。
UL0205-202	COBOL WSエミュレータ	80,000	COBOLのWSエミュレータ機能を提供。クライアントのWindows OS上で動作。インストール単位(マシン単位)に1本必要。 インストール媒体は、COBOL Media Option(別手配)が必要。サーバ側に「COBOL アプリケーション実行環境 Server」が必要。 WSエミュレータ接続のサーバで実行する機能により、次のライセンスが必要。 ➢ COBOL Standard Edition Client Runtime (必須) ➢ COBOL DBアクセス Client Runtime ➢ COBOL SQLアクセス Client Runtime ➢ IFASPRO RDB Client Runtime

• COBOL 拡張システムサブルーチン

• COBOLのシステムサブルーチンをサポート

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1016-009	COBOL 拡張システムサブ ルーチン Server	100,000	COBOLのシステムサブルーチン機能を提供。WindowsサーバOS上で動作。2コアにつき1本 必要。 インストール媒体は、COBOL Media Option(別手配)が必要。
UL0061-009	COBOL 拡張システムサブ ルーチン Client	30,000	COBOLのシステムサブルーチン機能を提供。クライアントのWindows OS上で動作。インストール単位(マシン単位)に1本必 要。インストール媒体は、COBOL Media Option(別手配)が必要。 Remote Desktopで利用される場合、実行するクライアントOS分、本製品の購入が必要。

• COBOL A-VX互換機能/カンパニIDオプション

• A-VXのCID相当機能をサポート

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1387-30W	COBOL A-VX互換機能/ カンパニIDオプション	480,000円	A-VXのCID相当機能を利用するための製品。WindowsサーバOS上で動作。1サーバにつき1本 必要。 インストール媒体無し。COBOL Standard Edition Developerに同梱のインストール媒体をご利用可能です。または、COBOL Media を別手配で用意してください。



ここがポイント：

「COBOL A-VX互換機能/カンパニIDオプション」はCOBOL WSエミュレータを利用するサーバ集中型システムでサーバOSへインストールすることを想定した製品です

COBOLアプリケーションの実行時に必要となる製品のため、開発・評価時には評価実行を行うサーバ、本番運用時には本番サーバに必要です

- PrintBridge、KSPプリンタ支援ソフトウェア
 - オープンプリンタ、マルチインパクトプリンタへの対応

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1177-501	PrintBridge	80,000	COBOL アプリケーション実行環境、アプリケーション実行環境、および、ETOSJXと連携しオープン系ネットワークプリンタ(ページプリンタ)へのネットワーク印刷機能を提供するソフトウェア。別途、プリンタ追加ライセンス製品あり
UL0122-301	KSPプリンタ支援ソフトウェア	120,000	COBOL アプリケーション実行環境、アプリケーション実行環境と連携し、COBOLアプリケーションおよびホストアプリケーションを使用したマルチインパクトプリンタへのネットワーク印刷機能を提供するソフトウェア。別途、プリンタ追加ライセンス製品あり

■ A-VXからの移行ツール関連

• VISUALFORMS

- A-VXからのフォーム移行や、フォーム設計機能をサポート

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL0201-803	VISUALFORMS	80,000	• ビジネス帳票を設計する帳票設計支援ユーティリティ • クライアントのWindows OS上で動作。インストール単位(マシン単位)に1本必要 • インストール媒体は同梱

- 日本語文字拡張セット

- A-VXの外字をWindowsに移行する機能や、外字編集機能をサポート

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UL1203-701	日本語文字拡張セット Ver5.0	100,000	- A-VXの外字をWindowsに移行する機能や編集機能を提供 - サーバ、クライアントのどちらのWindows OS上でも動作。インストール単位(マシン単位)に1本必要 - インストール媒体は同梱
UL1203-103	日本語文字拡張セット 外字変換オプション Ver2.0	100,000	- Express外字ファイル(*.FTG)とWindows外字ファイル(*.TTE)をダイレクトに相互変換するツール - サーバ、クライアントのどちらのWindows OS上でも動作。インストール単位(マシン単位)に1本必要 - インストール媒体は同梱、日本語文字拡張セット が必須
以下の製品は、32ビットアプリケーションである「日本語文字拡張セット Ver5.0」、「日本語文字拡張セット 外字変換オプション Ver2.0」と組み合わせて利用する			
UL1206-101	G1集合開発支援パッケージ Ver2.0	150,000	G1集合文字を、Windows上で利用できるようにシフトJISの外字領域に文字を割り当て利用可能にする機能

(つづき)

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
以下の製品は、64ビットアプリケーションである「COBOL Standard Edition」、「システムサブルーチン」、「アプリケーション実行環境」と組み合わせて利用する			
UL1574-001	G1集合開発支援 パッケージ(x64 Edition)	150,000	・ G1集合文字をWindows上で利用できるようにシフトJISの外字領域に文字を割り当て利用可能にする機能を提供 ・ サーバ、クライアントのどちらのWindows OS上でも動作。インストール単位(マシン単位)に1本必要 ・ インストール媒体は同梱 ・ 別売のFontAvenue UniAssist クライアントPC用フォントまたはFontAvenue UniAssist サーバー用フォントが必要
UL1574-002	G1集合実行支援 パッケージ(x64 Edition) 1ユーザライセンス	30,000	・ G1集合開発支援パッケージの機能を利用した実行環境を提供(1個分) ・ サーバ、クライアントのどちらのWindows OS上でも動作。インストール媒体は同梱 ・ 別売のFontAvenue UniAssist クライアントPC用フォントまたはFontAvenue UniAssist サーバー用フォントが必要
UL1574-012	G1集合実行支援 パッケージ(x64 Edition) 5ユーザライセンス	117,000	・ G1集合開発支援パッケージの機能を利用した実行環境を提供(5個分) ・ サーバ、クライアントのどちらのWindows OS上でも動作、インストール媒体は同梱。 ・ 別売のFontAvenue UniAssist クライアントPC用フォントまたはFontAvenue UniAssist サーバー用フォントが必要
UL1574-022	G1集合実行支援 パッケージ(x64 Edition) 20ユーザライセンス	450,000	・ G1集合開発支援パッケージの機能を利用した実行環境を提供(20個分) ・ サーバ、クライアントのどちらのWindows OS上でも動作。 ・ インストール媒体は同梱。 ・ 別売のFontAvenue UniAssist クライアントPC用フォントまたはFontAvenue UniAssist サーバー用フォントが必要

• FontAvenue UniAssist フォント

VerUP • UnicodeベースおよびシフトJISベースのWindows用フォント

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UWT00T-N9008	FontAvenue UniAssist メディア クライアント用 V3 Release 8	価格改定 20,000	「FontAvenue UniAssist クライアントPC用フォント V3.8」を収録したメディア
UWT00T-N9008-I	FontAvenue UniAssist メディア クライアント用 V3 Release 8 i配信	1,000	「FontAvenue UniAssist クライアントPC用フォント V3.8」を収録したメディア(ダウンロード版)
UWT00T-N9009-I	FontAvenue UniAssist クライアントPC用フォント V3.8 クライアントライセンス (1)	36,800	クライアントOS上で、Unicodeベースのフォント「F A JIPS明朝」、「F A JIPSゴシック」、シフトJISベースのフォント「F A 明朝」、「F A ゴシック」、「F A 明朝拡張L」、「F A ゴシック拡張M」などのフォントを利用するためのライセンス(1クライアント分)
UWT00T-N9109-I	FontAvenue UniAssist クライアントPC用フォント V3.8 クライアントライセンス (5)	179,400	UWT00T-N9009-I 5クライアント分のライセンス
UWT00T-N9409-I	FontAvenue UniAssist クライアントPC用フォント V3.8 クライアントライセンス (10)	349,600	UWT00T-N9009-I 10クライアント分のライセンス
UWT00T-N9209-I	FontAvenue UniAssist クライアントPC用フォント V3.8 クライアントライセンス (20)	690,000	UWT00T-N9009-I 20クライアント分のライセンス
UWT00T-N9309-I	FontAvenue UniAssist クライアントPC用フォント V3.8 クライアントライセンス (100)	3,220,000	UWT00T-N9009-I 100クライアント分のライセンス
UWT00T-N900P	FontAvenue UniAssist メディア サーバー用 V3 Release 8	価格改定 20,000	「FontAvenue UniAssist サーバー用フォント V3.8」、「FontAvenue UniAssist コード変換 V3.8」を収録したメディア
UWT00T-N900P-I	FontAvenue UniAssist メディア サーバー用 V3 Release 8 i配信	1,000	「FontAvenue UniAssist サーバー用フォント V3.8」、「FontAvenue UniAssist コード変換 V3.8」を収録したメディア (ダウンロード版)
UWT00T-N900A-I	FontAvenue UniAssist サーバー用フォント V3.8 サーバーライセンス (1)	500,000	サーバOS上で、Unicodeベースのフォント「F A JIPS明朝」、「F A JIPSゴシック」、シフトJISベースのフォント「F A 明朝」、「F A ゴシック」、「F A 明朝拡張L」、「F A ゴシック拡張M」などのフォントを収録したライセンス製品(1サーバーインスタンス分)
UWT00T-N910A-I	FontAvenue UniAssist サーバー用フォント V3.8 サーバーライセンス (5)	1,950,000	UWT00T-N900A-I 5クライアント分のライセンス
UWT00T-N920A-I	FontAvenue UniAssist サーバー用フォント V3.8 サーバーライセンス (10)	3,800,000	UWT00T-N900A-I 10クライアント分のライセンス

• FontAvenue UniAssist コード変換

VerUP • Unicodeと他の文字コードとのコード変換をサポート

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UWT00T-N900T-I	FontAvenue UniAssist コード変換 V3.8 CPUライセンス (1)	500,000	Unicode とJIS 等のメーカー固有の文字コード等変換するライブラリ・ツール。COBOL Standard Edition Developerで開発したCOBOLアプリケーションでJIS2004文字コードを利用し、G1/G2集合文字をWindows OSで扱う場合に必要。1CPUのライセンスを含む。インストール媒体は、FontAvenue UniAssist サーバー版 メディア (別手配)が必要 別売のFontAvenue UniAssist クライアントPC用フォントまたはFontAvenue UniAssist サーバ用フォントが必要
UWT00T-N910T-I	FontAvenue UniAssist コード変換 V3.8 CPUライセンス (2)	1,000,000	FontAvenue UniAssist コード変換 2CPUまでのライセンスを含む製品
UWT00T-N920T-I	FontAvenue UniAssist コード変換 V3.8 CPUライセンス (3)	1,500,000	FontAvenue UniAssist コード変換 3CPUまでのライセンスを含む製品
UWT00T-N930T-I	FontAvenue UniAssist コード変換 V3.8 CPUライセンス (4)	2,000,000	FontAvenue UniAssist コード変換 4CPUまでのライセンスを含む製品

• FontAvenue UniAssist 文字管理

VerUP • Windows上の外字環境をメンテナンスするツール群

型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UWT00T-N900G-I	FontAvenue UniAssist 文字管理 V3.8 システムライセンス (1)	100,000	シフトJIS環境のWindows外字を、Unicode環境のWindows外字へ移行するツールなど インストール媒体は、FontAvenue UniAssist サーバー版 メディア (別手配)が必要

- FontAvenue JIS78/90文字セット

VerUP • JIPS G0文字を表示するためのTrueTypeフォント

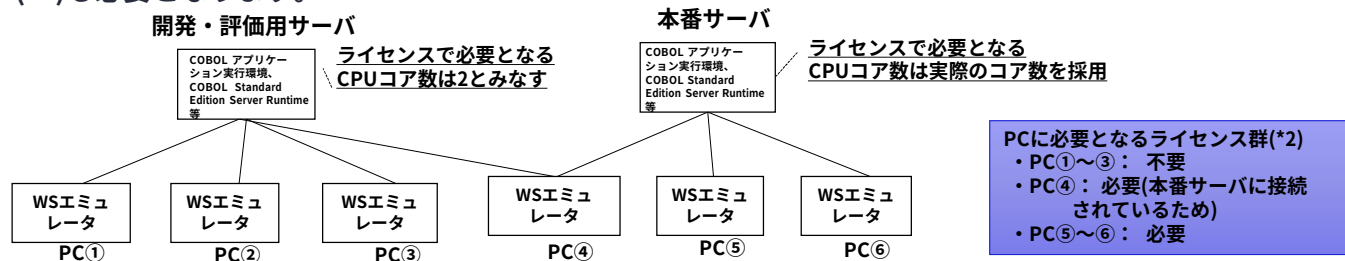
型番	製品名	希望小売価格 (円：税別)	概要
UWT00T-N9008	FontAvenue UniAssist メディア クライアント用 V3 Release 8	価格改定 20,000	「FontAvenue JIS78/90文字セット V3.10」を収録したメディア
UWT00T-N9008-I	FontAvenue UniAssist メディア クライアント用 V3 Release 8 i配信	1,000	「FontAvenue JIS78/90文字セット V3.10」を収録したメディア（ダウンロード版）
UWT00G-N801P-I	FontAvenue JIS78/90文字セット V3.10 クライアントライセンス (1)	4,800	COBOL WSエミュレータ上でA-VXと同様にJIS78文字を表示させる場合、COBOL WSエミュレータをインストールするマシンごとに必要。

6.2. ライセンスの考え方

- 開発・評価用APサーバは、CPUコアライセンスの追加不要（開発・評価用APサーバと本番用APサーバが同一の場合を除く）

- ・ 開発・評価用APサーバと本番用APサーバが別構成の場合の例

- ・ サーバ上でCOBOLアプリケーションを実行させる場合には、サーバ上にサーバランタイム製品(*1)が必要となりますが、開発・評価用APサーバの場合には、実際のCPUコア数によらず、コア数2とみなして製品手配いただくことが可能です。また、開発・評価用APサーバに接続しているCOBOL WSエミュレータをセットアップしたPCに必要となるライセンス群(*2)も必要ありません。
- ・ 開発・評価用APサーバ上で評価が完了したCOBOLアプリケーションを本番サーバ上で実行させる場合にも、同じくサーバ上にサーバランタイム製品が必要となりますが、本番用APサーバの場合には、CPUコア数に応じた製品・ライセンス手配が必要となります。また、本番用APサーバに接続しているCOBOL WSエミュレータをセットアップしたPCに必要となるライセンス群(*2)も必要となります。



- ・ 開発用・評価用APサーバと本番用APサーバが同一の場合の例

- ・ CPUコア数に応じた製品・ライセンス手配が必要となります。また、本番用APサーバに接続しているCOBOL WSエミュレータをセットアップしたPCに必要となるライセンス群(*2)も必要となります。

(*1)サーバランタイム製品: COBOL Standard Edition Server Runtime、COBOL 拡張システムサブルーチン Server、COBOL アプリケーション実行環境 Server、IFASPRO RDB、IFASPRO RDB Server Runtime、COBOL DBアクセス Server Runtime

(*2)PCに必要となるライセンス群: COBOL Standard Edition Client Runtime、IFASPRO RDB Client Runtime、COBOL DBアクセス Client Runtime

■ システム構成ガイド

- COBOL Standard Editionを使用したシステム構成ガイドを下記のページよりご参照ください。

<https://jpn.nec.com/cobol/system.html>

COBOL SE システム構成ガイド

6.3. 動作環境

■ COBOL Standard Editionの動作環境

- 対応OS

Windows Server 2019

Windows Server 2022

Windows 10 (64ビット版)(動作確認バージョン22H2(ビルド19045))

Windows 11(動作確認バージョン23H2(ビルド22631))

- 必須製品

Visual Studio 2019

Visual Studio 2022

(いずれも無償版を除く)

- 対応データベース

- COBOL DBアクセスを使用する場合

Oracle Database 12c、Oracle Database 12c R2 、Oracle Database 19c

SQL Server 2012、SQL Server 2014、SQL Server 2016、SQL Server 2017、SQL Server 2019

- COBOL SQLアクセスを使用する場合
ODBC対応のデータベースに接続可能

※以下のデータベースは確認済み

SQL Server 2019 Standard、SQL Server 2022 Standard

- 対応仮想環境

VMware

Hyper-V



今後リリースされるOSやVisual Studioの対応は？

ご安心ください。

OSやVisual Studioの新バージョン出荷後、半年～1年目途にCOBOL製品の動作対応を実施予定です。

なお、動作保証は出荷済のCOBOL製品で対応する場合と、新バージョンのCOBOL製品で対応する場合があります。

6.4. サポート概要

- サービス内容については、NECサポートサービスをご確認ください。
<https://www.support.nec.co.jp/GuidanceServiceIntroduction.aspx>
- 保守契約型番(5D8H、7D24H)、1年分のサポートパック型番(8H、24H)を用意しております。
- サポート型番やサポート期限は上記サイトの「サポート対象製品」で製品型番や製品名から検索いただけます。

7. その他

7.1. COBOLシリーズラインナップ

Enterprise Edition : 本格OLTP・バッチ処理、大規模・メインフレームからのオープン化向け
Standard Edition : 中小規模向け、ワコンからのオープン化向け



お問い合わせ

お問い合わせ先



SystemDirectorでは業務システム開発環境に関する様々なご質問やご相談にお応えします
例えば・・・

再構築を検討中のお客様に何を提案したら良いか
業務アプリケーションの開発や保守を効率化するにはどうしたら良いか
既存資産をどう活用したら良いか

などお気軽にご相談ください

● ご購入前のお問い合わせ

NEC SystemDirector ご相談窓口

● Web <https://jpn.nec.com/SystemDirector/contact.html>

● 本資料の内容についてのお問い合わせ

NEC COBOLご相談窓口

● Web <https://jpn.nec.com/cobol/contact.html>

本資料について

■ 記載内容に関する注意事項

- 資料作成時点の情報であり、今後変更される可能性があります。予めご了承ください。

商標について

- System Director、Open COBOL Factory 21、WebOTX、WebSAMは日本電気株式会社の登録商標です。
- Microsoft[®]、Windows[®]、Windows Server[®]、Visual C++[®]、Visual Studio[®]、Excel[®]、SQL Server[®]、Access[®]は、米国あるいはその他の国における米国Microsoft Corporationの商標または登録商標です。
- Windows 10 の正式名称は、Microsoft[®] Windows[®] 10 Operating System です。
- Windows 11 の正式名称は、Microsoft[®] Windows[®] 11 Operating System です。
- Windows Server 2019 の正式名称は、Microsoft[®] Windows Server[®] 2019 Operating System です。
- Windows Server 2022 の正式名称は、Microsoft[®] Windows Server[®] 2022 Operating System です。
- OracleとJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- その他、記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

The background features several thin, light-colored lines that sweep across the right side of the slide, creating a sense of movement and design.

\Orchestrating a brighter world

NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、
誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指します。

\Orchestrating a brighter world

NEC